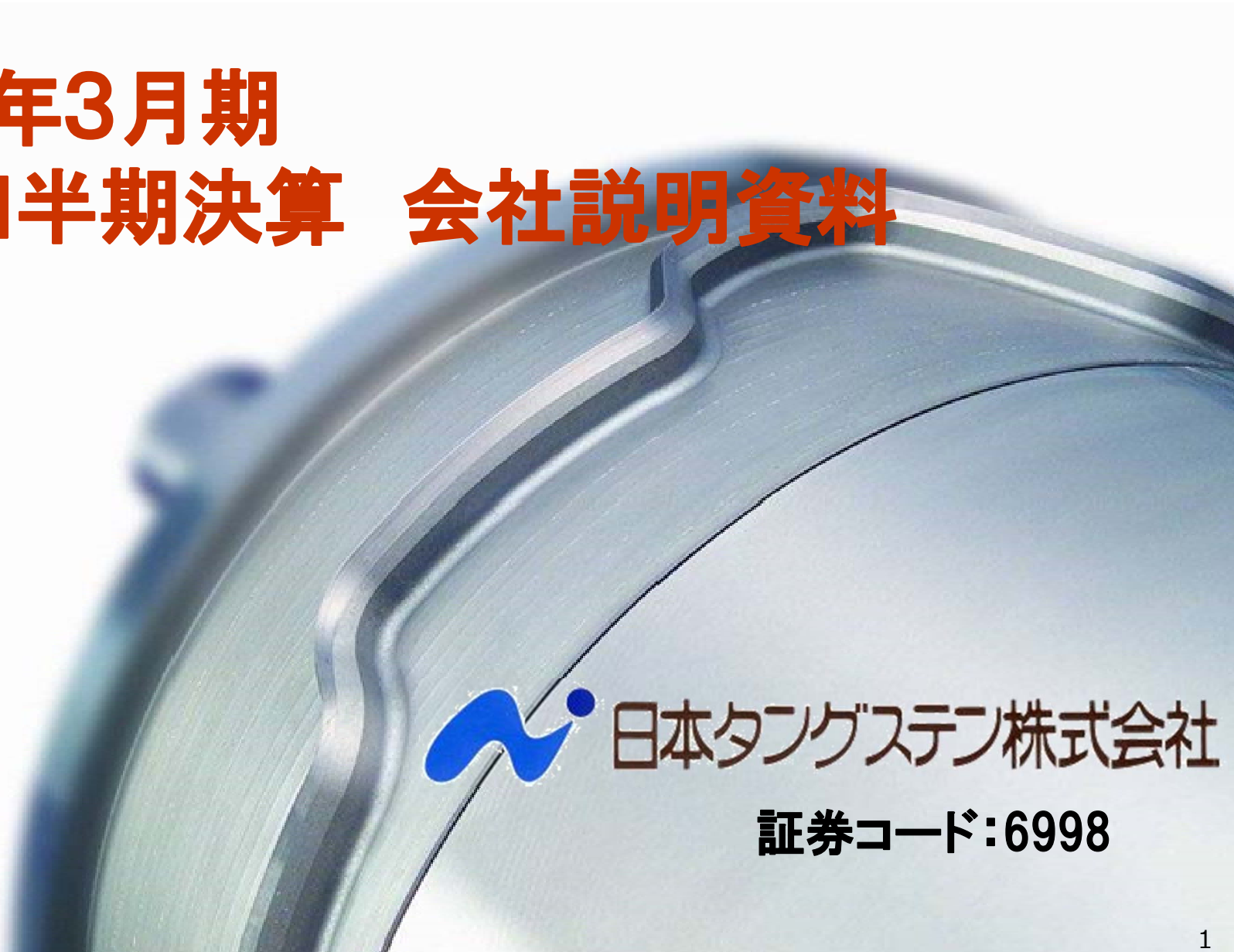





2019年3月期 第2四半期決算 会社説明資料



 日本タングステン株式会社

証券コード:6998

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 業績の概要
4. 剰余金の配当、配当方針
5. 2020中期経営計画

会社概要

社名	日本タングステン株式会社（証券コード：6998）
創立	1931年4月1日（創立87周年）
本社	福岡市博多区美野島1丁目2番8号
代表	取締役社長 後藤 信志
事業内容	<ol style="list-style-type: none">1. タングステン、モリブデン、その他の金属の精製加工並びに販売2. ファインセラミックその他窯業製品の製造並びに販売3. 不動産の賃貸および管理4. 太陽光発電事業
資本金	25億950万円
売上高	111億円（連結 2018.03現在）
従業員数	499人（連結 2018.09現在）
発行株式総数	2,577千株
株主数	3,020名（2018.09現在）
株式市場	東証（第2部）、福証

創業までの経緯

当社の創立者の一人である秋山英二は、熊本高等工業学校（現熊本大学）の冶金科を卒業後、当時の久原鋳業（現JX金属株）の日立精錬所で勤務していました。

大正9年4月、タングステンの有望性に着目、新生の日本冶金株（東邦金属株の前身）に移り、ここでアメリカから招かれた技術顧問ロジャース氏の指導を受け、この分野で日本有数の技術者となります。

昭和5年春、秋山は照明用タングステン線だけでなく、電気接点や複合金属・加工品も手掛けたい思いから会社設立の構想

を抱き、(株)戸上電機製作所の戸上信文社長の理解と同社の大きな支援のもと、昭和6年4月1日の当社設立※に尽力しました。現在の本社ビルは創業時の工場跡地に建設しております。

（※戸上氏は当社初代社長に就任）



1931年
創業当時の工場全景
(福岡市住吉)



若き日の秋山英二

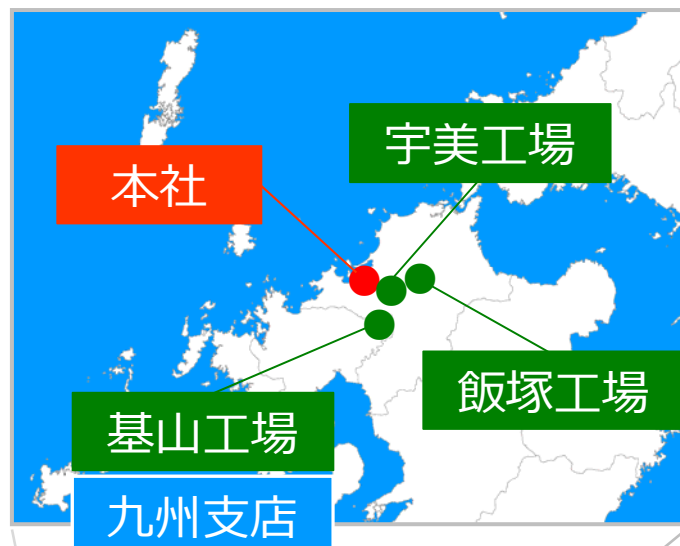


現在 本社ビル
(博多区美野島)

国内事業所



本社



基山工場

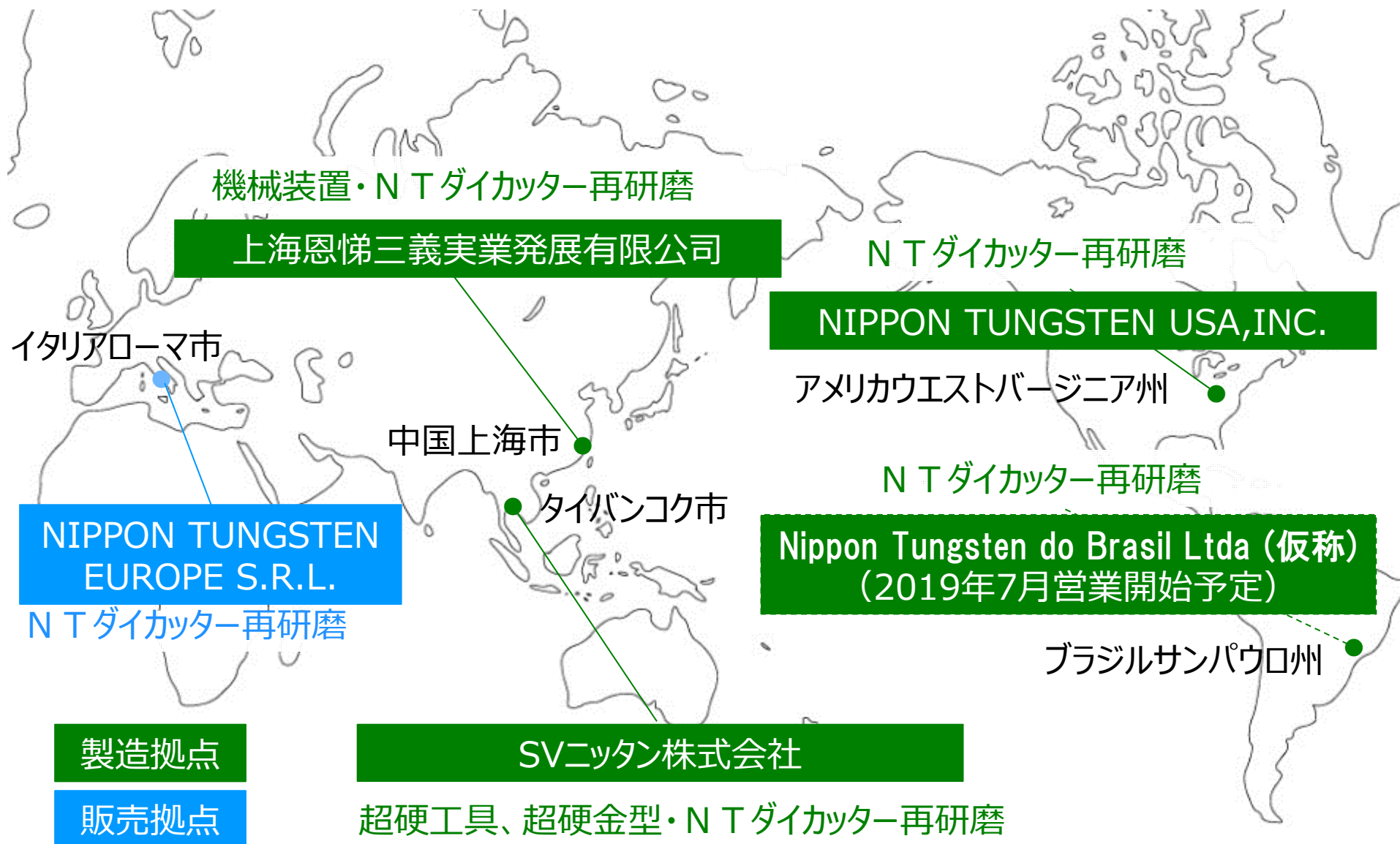


飯塚工場



宇美工場

海外事業拠点



タングステンは？

スウェーデン語で「**重い石**」を意味する金属です。

その名のとおり「重い」という特徴を含め、次の特徴があります。

タングステンの特徴

1



熱に強い！

鉄は約 1 5 0 0 °C で溶ける。
タングステンは 3 3 8 0 °C で溶ける！

2



硬い！

炭素とくっつくと非常に硬くなる！
ダイヤモンドに次ぐ硬さ！

3



重い！

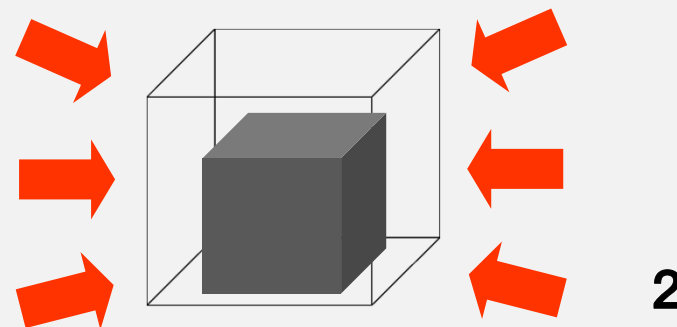
同じ大きさの鉄の 2.5 倍、鉛の 1.7 倍。
金とほぼ同じ重さ。

粉末冶金製品の製造工程

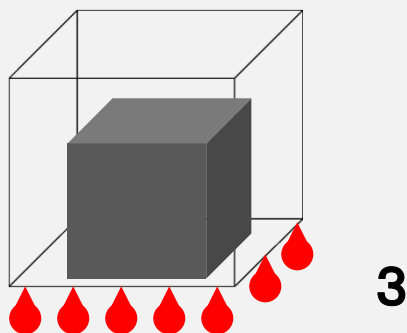
粉末・混合



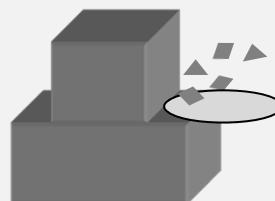
成形



焼結



加工



製品形状



当社の事業ドメインと製品

■ 衛生用品



NTダイカッター

■ 医療



タングステンリボン

■ 半導体



真空
チャック

■ インフラ



電力開閉装置
用電極



基山工場

■ 電子部品



ハードディスク
ドライブ用
磁気ヘッド基板

■ エネルギー



耐食・
耐摩耗製品

■ 自動車



抵抗溶接用
電極

■ 産業機器



ウルトラ
ファインバブル
クーラントシステム

当社の事業構成および主要製品

セグメント別売上高

6,233 (56%)

機械部品事業

電機部品事業

4,919 (44%)

超硬合金
製品



セラミック
製品



4,176
37%

2018年3月期
売上高
11,169
(内部取引含む)

1,923
17%

2,996
27%

金属材料
製品



電気・電子
材料製品



単位：百万円

超硬合金製品

Cemented carbide material products

金属の強靱さとセラミックスの耐摩耗性を合わせ持った超硬合金を製造しています。オリジナル耐摩耗・耐食性超硬と精密技術が特徴です。



製品紹介（超硬合金の主な製品）

耐食・耐摩耗製品



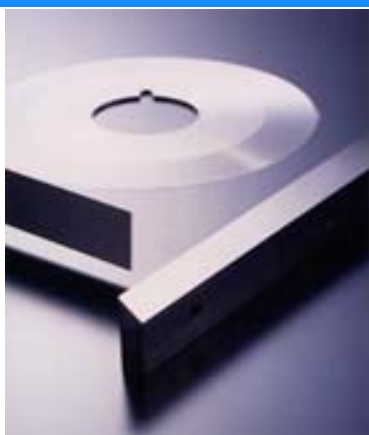
用途例：産業用ポンプ

長尺超硬製品（コーターバー）



用途例：液晶製造用塗布ヘッド

超硬合金製切断工具



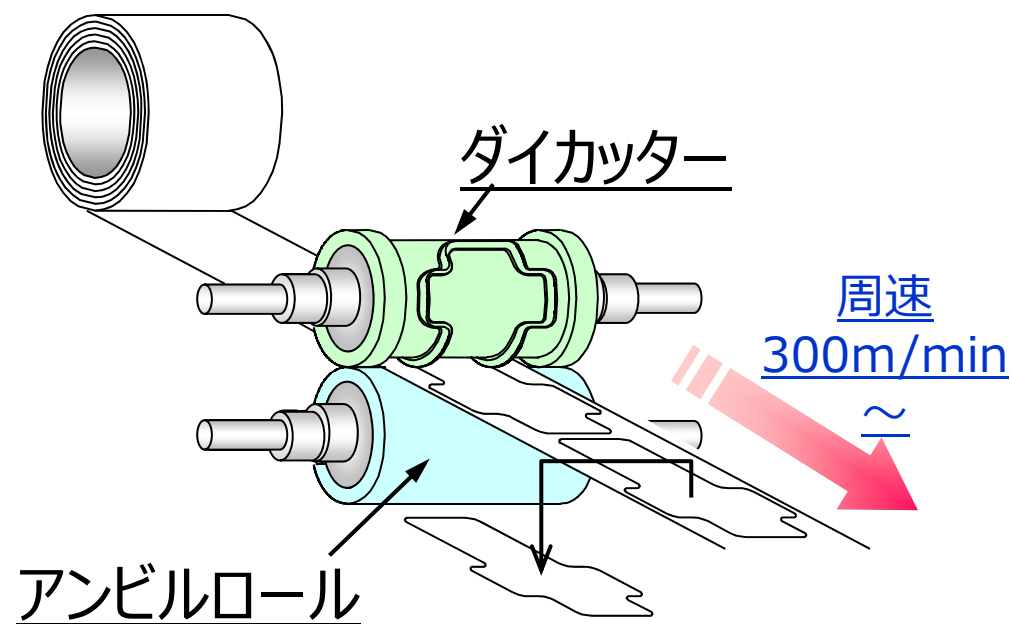
用途例：切断用刃物

高温成形金型



用途例：ガラスレンズモールド

NTダイカッター



NTダイカッターは1986年、世界に先駆けて、独自の粉末冶金・高精度加工技術により商品化された高性能超合金製ロータリーカッターで、不織布・紙・ポリマー・金属箔などの高速輪郭加工が可能です。

紙おむつ・ナプキン製造用カッター（超合金）の**グローバル市場で高いシェアを誇る**当社の主力製品です。

セラミックス製品 Ceramic material products

高強度、耐食性、耐摩耗性に優れたセラミックス製品。粉末冶金技術を駆使したオリジナル複合セラミックスを製造しております。



製品紹介（セラミックスの主な製品）

多孔質セラミック真空チャック



用途例：フィルム検査・搬送装置

耐プラズマ材料製品 **NEW**



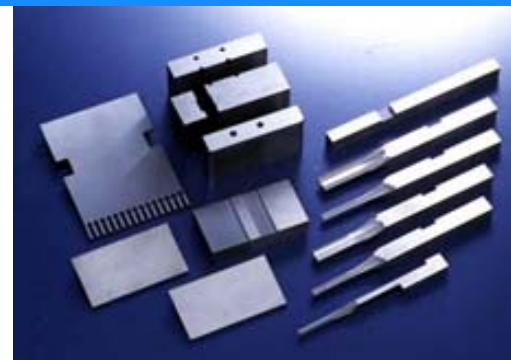
用途例：半導体製造装置部材

造管用セラミックロール



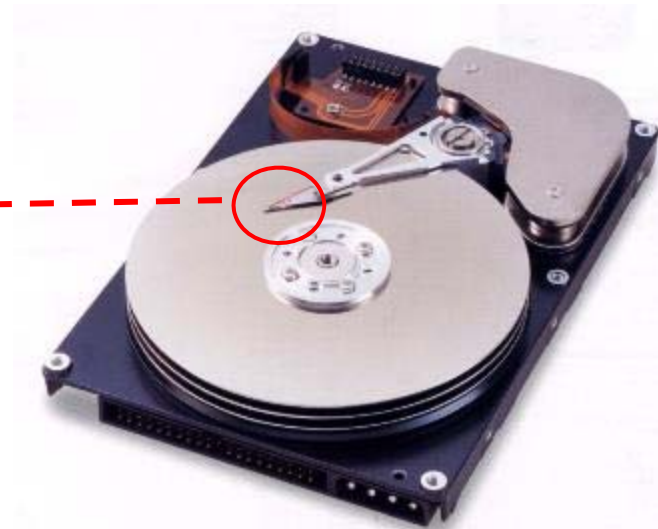
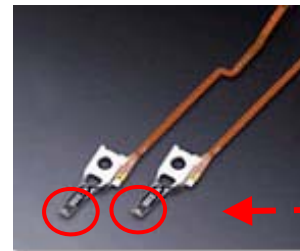
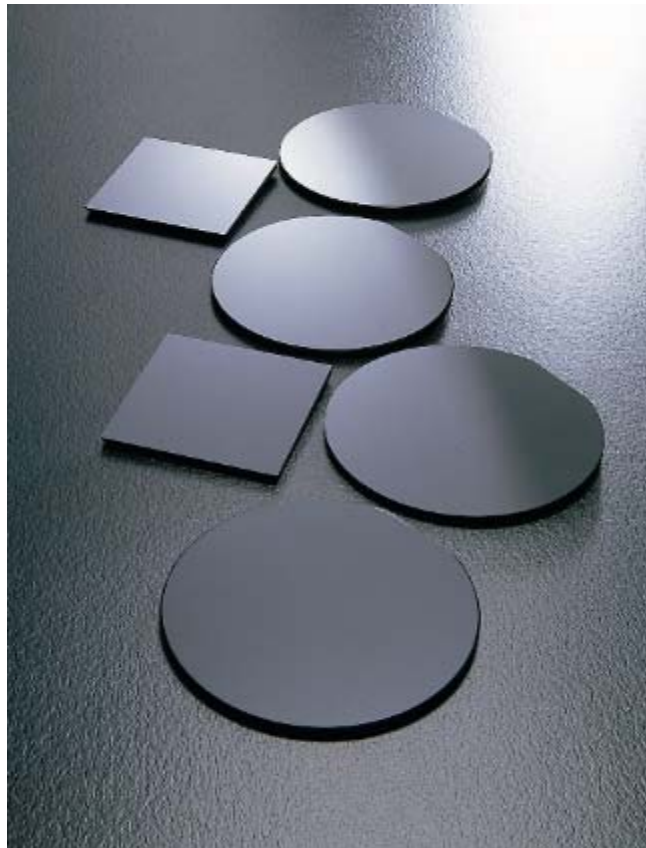
用途例：鋼管製造用ガイドロール

プレス金型用セラミックス



用途例：銅系部材用金型

ハードディスクドライブ用磁気ヘッド基板



パソコンなどの記録メディアであるハードディスクドライブにデータの読み書きを行う磁気ヘッドが搭載されており、このヘッドに当社のセラミックスが一般的に用いられています。

磁気ヘッド基板の**世界シェアは75%**（自社推計）で世界中の磁気ヘッドに広く使用され、高い評価をいただいています。

金属材料製品

Metallic Material (W/Mo) Products

タングステンの持つ高い耐熱性、電気特性を利用したハロゲンランプ用ワイヤー、自動車球用ランプ、OA機器用（プロジェクターランプ用ワイヤー）、医療用（カテーテル）、ヒーター用等を製造しています。



製品紹介（金属材料の主な製品）

タングステンワイヤー



用途例：電球のフィラメント

タングステン棒



用途例：放電灯用電極
抵抗溶接用電極

コロナ放電タングステンワイヤー

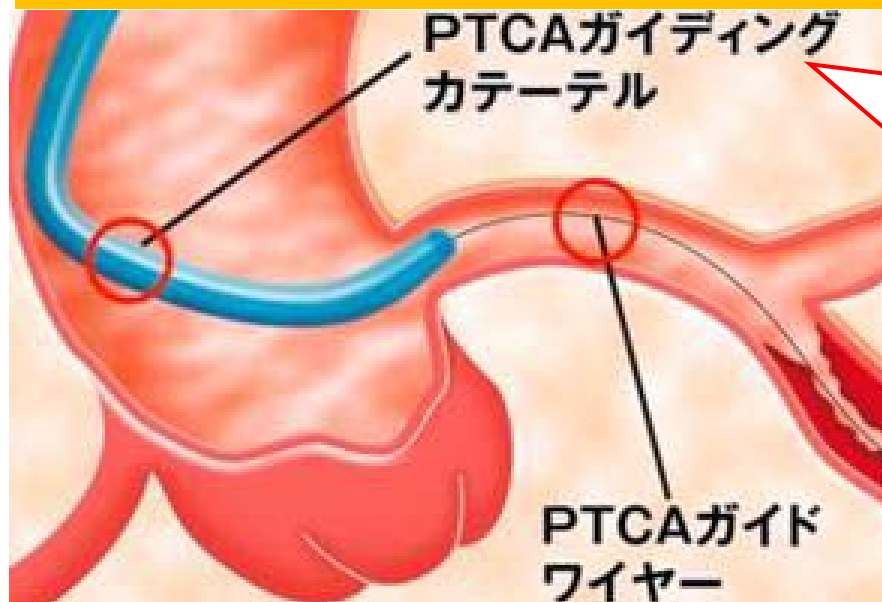


用途例：空気清浄機用部材

タングステンリボン

— 体にやさしい(低侵襲)医療に役立っています —

血管狭窄(きょうさく)手術



タングステンの特徴を生かした細い線や薄いリボンが、ガイディングカテーテルに使われています。細い血管を通り、確実に患部に到着させます。

電気・電子材料製品

Electric and Electronic Parts Material Products

スイッチの接点、抵抗溶接用電極、EVリレー用接点等の用途として、電気伝導性に優れた銀や銅と、耐熱性に優れたタングステンを組合せた複合材料を提供しています。



製品紹介（電気・電子材料の主な製品）

日本タングステン株式会社

開閉器用接点・電極



用途例：ガス遮断器用接点

プラズマ電極



用途例：プラズマ溶射用電極

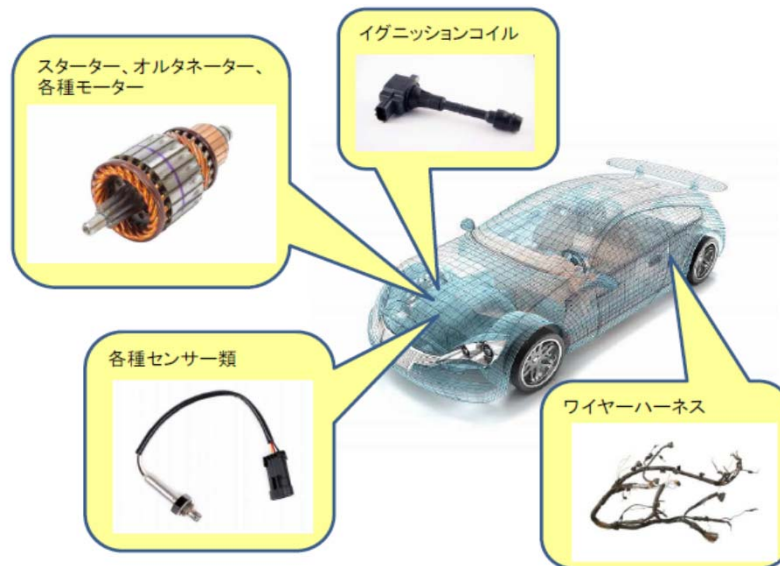
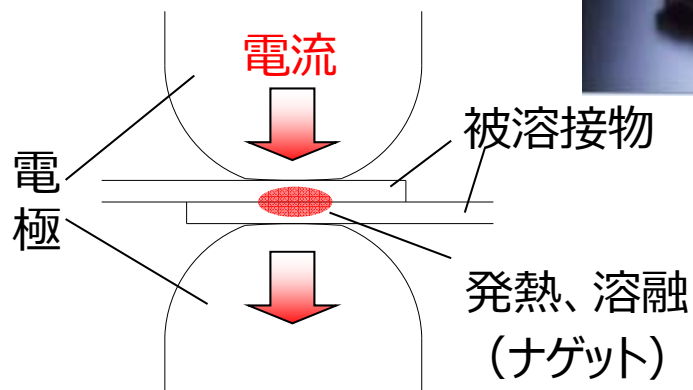
ヘビーアロイ



用途例：放射線遮へい材
 balancer用錘

抵抗溶接用電極

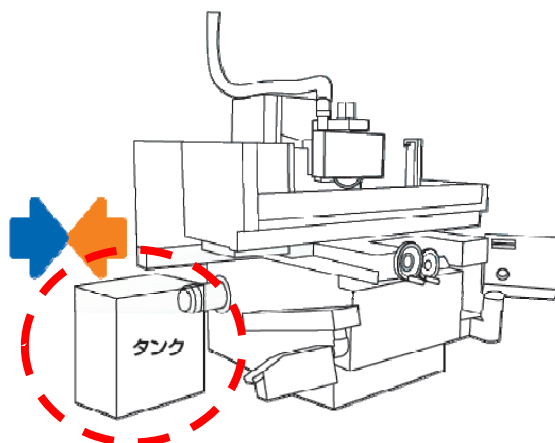
抵抗溶接のイメージ図



タングステン系の電極は、主に自動車電装部品の**接合工程**で用いられています。

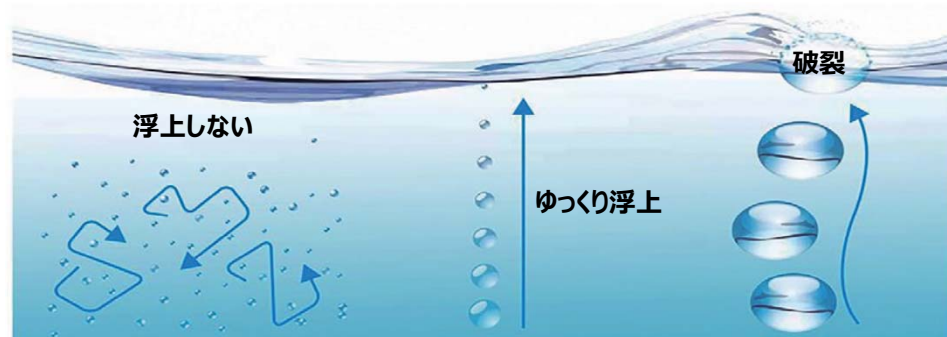
当社の抵抗溶接用電極は長寿命化や生産効率の向上に寄与しています。

ウルトラファインバブル（UFB）クーラントシステム



- ・ウルトラファインバブル（UFB）を加工に応用することで、**研削能率は1.5倍以上、切削能率は1.4倍以上**に改善。
- ・UFBは未解明な点が多く、学術的解明が続けられていますが、**砥石の寿命延長と臭気防止**の効果が得られています。

※既存の加工機に接続するだけで使用可能な設計となっています。



ウルトラ
ファインバブル

直径1 μ m未満
微細な熱運動の為に
浮上せず消滅しない

マイクロ
バブル

直径1 μ m～100 μ m未満
浮力の為にゆっくり浮上し
やがて消滅する

ファインバブルより
大きいバブル

直径100 μ m以上
発生とともに
浮上してしまう

「ファインバブル」は、我々が日常目にする泡よりも小さい泡です。具体的には直径0.1mm（100 μ m）より小さな泡を「ファインバブル」と呼びます。さらに1 μ m～100 μ mを「マイクロバブル」、1 μ m未満を「ウルトラファインバブル」と呼び区別しています。

「マイクロバブル」は水が白く濁ったようになり目で確認できますが、「ウルトラファインバブル」は肉眼で見ることができない大きさです。この呼称も国際基準として制定されようとしています。

（出典：一般社団法人 ファインバブル産業会「ファインバブル産業会のご案内」）

● 損益の状況

(単位：百万円)

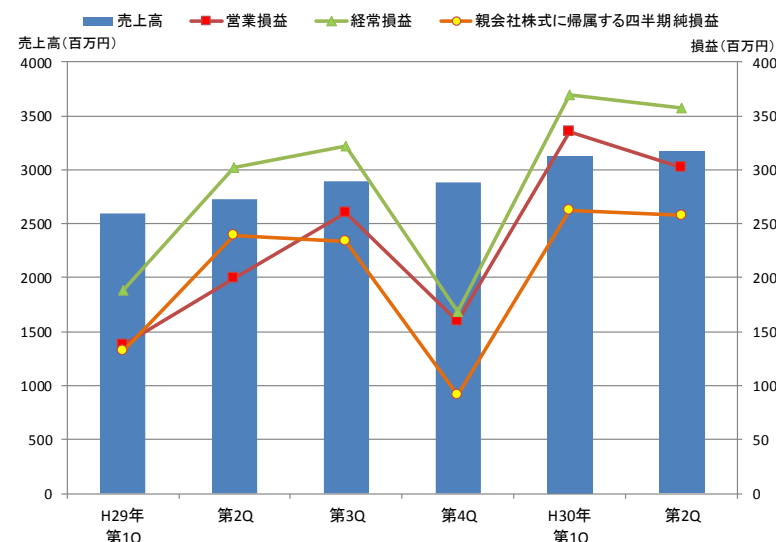
連結業績	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	対前年同四半期比 増減額 (増減率)
売上高	5,326	6,301	975 (18.3%)
営業利益	337	637	300 (89.1%)
経常利益	490	728	237 (48.5%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	371	521	150 (40.4%)

«当第2四半期の概況»
機械部品事業、電機部品事業と
も、好調に推移し、連結・個別と
も増収増益

(単位：百万円)

個別業績	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	対前年同四半期比 増減額 (増減率)
売上高	5,049	5,929	879 (17.4%)
営業利益	269	479	210 (78%)
経常利益	384	726	342 (89%)
四半期純利益	294	571	276 (93.8%)

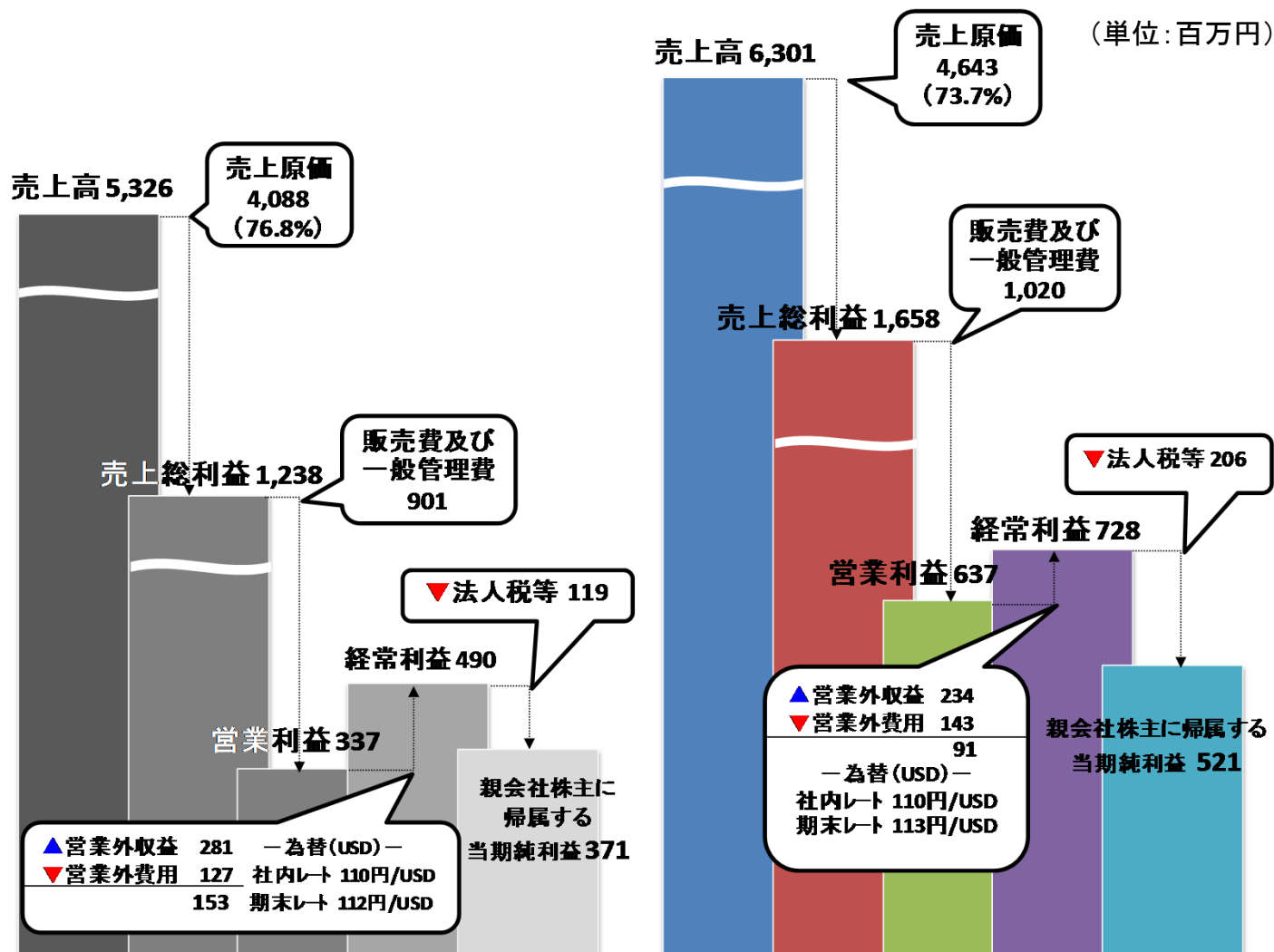
売上高・損益の推移(連結)



損益の概況 (連結)

2018年3月期第2四半期

2019年3月期第2四半期



項目	要因
売上総利益	連結各社売上高増加により増益
営業利益	生産性の向上、工程内不具合の削減等コスト対策を継続して行った結果、増益
経常利益	本社ビルの計画修繕により営業外費用が増加するも、営業利益の増加により増益
親会社株主に帰属する四半期純利益	税金費用が増加するも営業利益等の増加により増益

セグメント別の状況（連結）

2019年3月期第2四半期 セグメント別売上高

機械部品事業

3,705
59%
(55%)

超硬合金 製品



セラミック 製品



2,497
40%
(35%)

売上高

6,330
(内部取引含む)

2,616
41%
(45%)

電機部品事業

金属材料 製品



1,613
25%
(27%)

電気・電子 材料製品



1,208
19%
(20%)

単位：百万円

() は前年同四半期の占有比率

事業部別主要製品の状況

機械部品事業



衛生用品関連のNTダイカッター

- ・国内：生産体制強化とイノベーション浸透が進んだことやお客様の設備投資抑制から反転し増加基調となり増収
- ・海外：引き続き好調に推移



情報機器関連のハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板

- ・大容量データの保管用やニアラインストレージなどの需要が底堅く増収



液晶関連や電子部品関連の治工具製品

- ・超硬製治工具製品が好調で増収



	2018年3月期第2四半期	2019年3月期第2四半期	対前年四半期比
売上高 (百万円)	2,921	3,705	78.4(26.8%)
営業利益 (百万円)	410	669	25.8(63.0%)

※売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額

事業部別主要製品の状況

電機部品事業



自動車関連の接点製品

・海外向け E V 用接点製品が好調で増収



医療関係のタングステン製品

・主に海外向けが堅調に推移し増収



自動車関連の電極製品

・一部製品の需要減少により微減



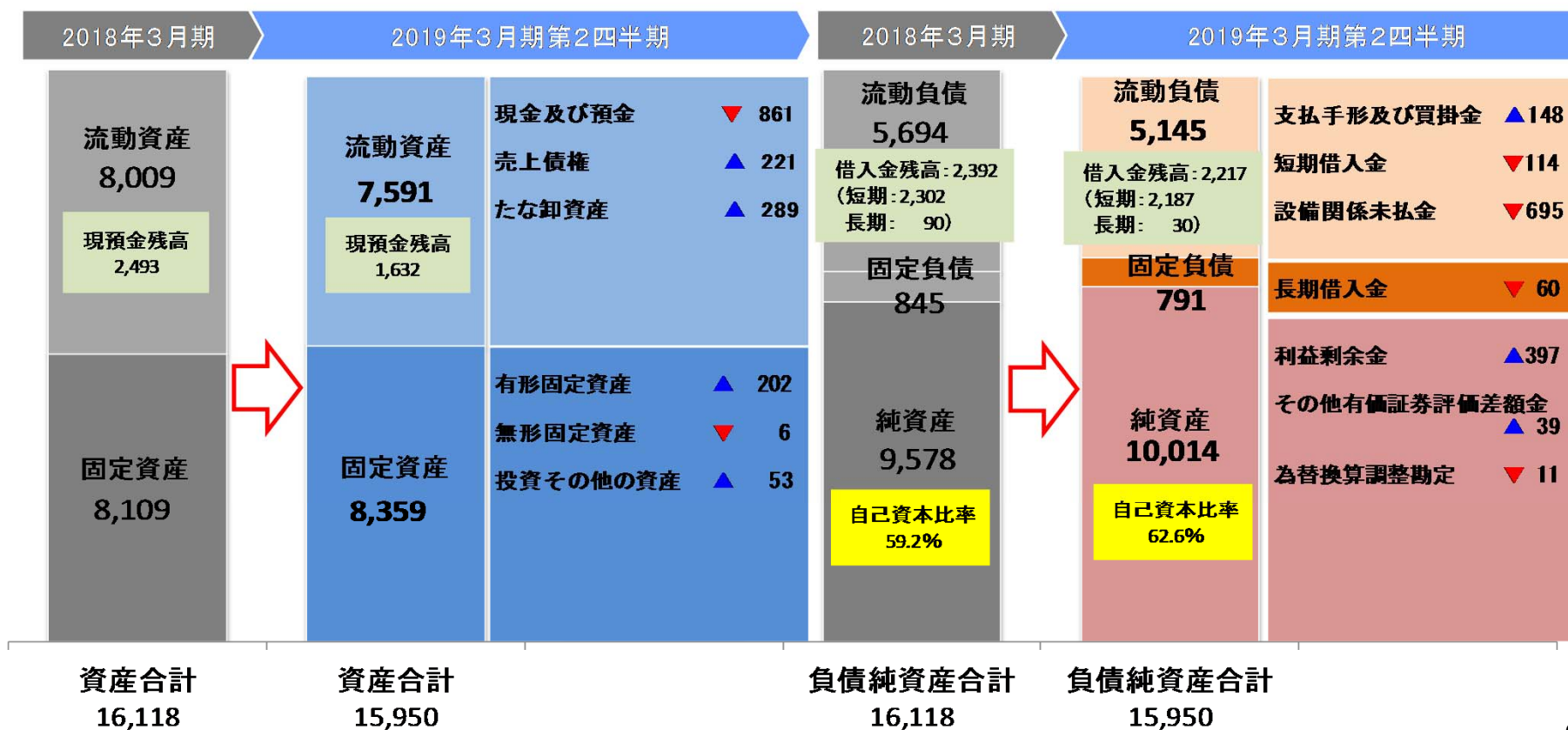
	2018年3月期第2四半期	2019年3月期第2四半期	対前年四半期比
売上高 (百万円)	2, 4 2 2	2, 6 1 6	1 9 3 (8.0%)
営業利益 (百万円)	1 5 4	2 3 8	8 3 (54.3%)

※売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額

財務の状況（連結）

（単位：百万円）

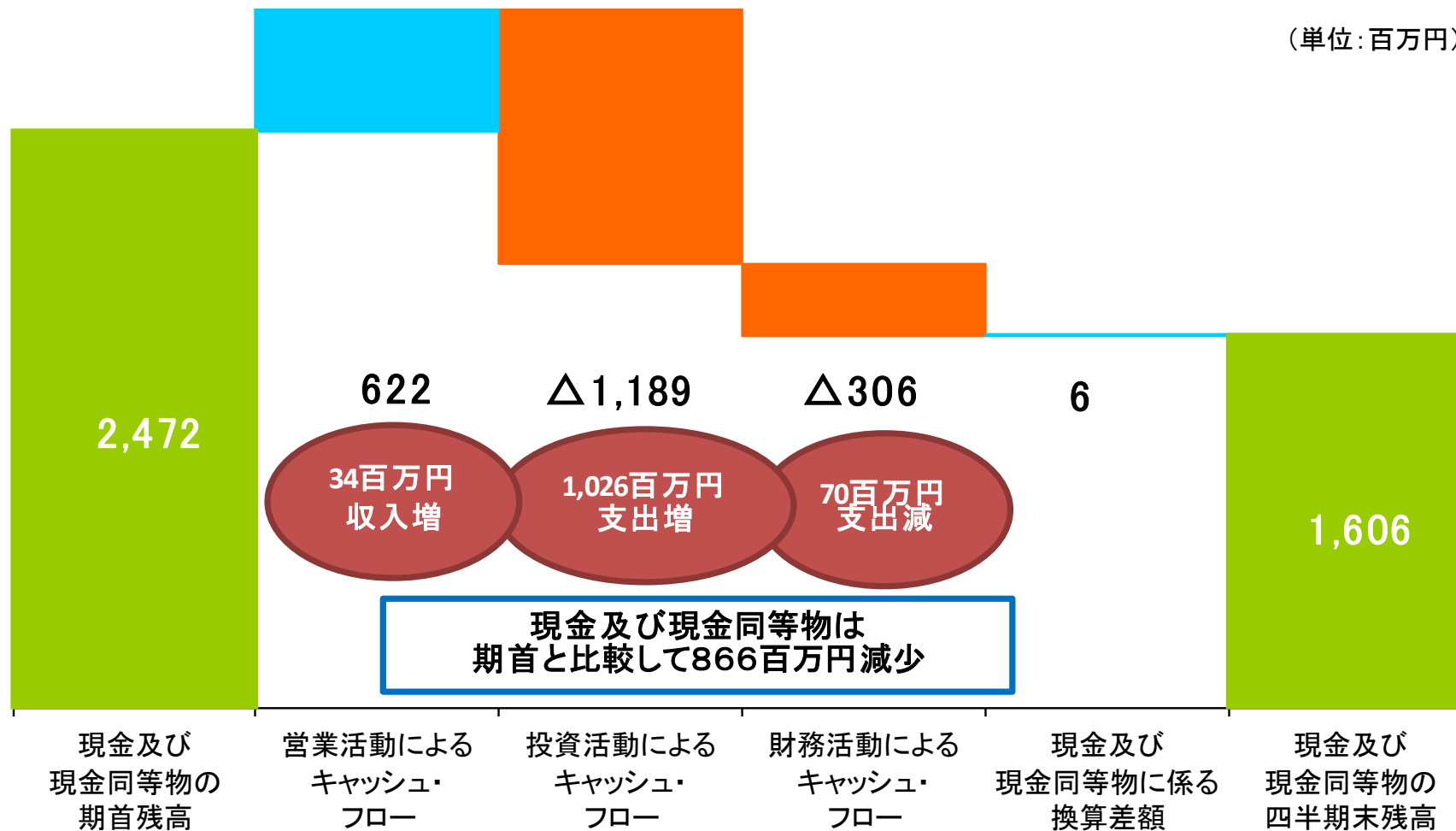
科目	2018年3月期	2019年3月期 第2四半期	前連結会計年度末比 増減額
総資産	16,118	15,950	△167
負債	6,540	5,936	△603
純資産	9,578	10,014	435



キャッシュ・フローの状況（連結）

2019年3月期第2四半期

(単位:百万円)



※増減は前年同四半期比

(売上高)

- ・情報機器関連のハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板や自動車関連のEV用接点製品が当初見込みよりも好調に推移
- ・衛生用品関連のNTダイカッターも国内、海外ともに需要先の設備投資が堅調に推移

(利益)

- ・下期に業務効率化を目的としたRPA（Robotic Process Automation）などのシステム関連費用や、設備導入に伴う減価償却費等の増加を見込むが売上高が堅調に推移しており、費用増を吸収して増益

以上より、売上高、利益ともに当初予想を上回る見込みのため、

通期業績の予想を連結、個別ともに修正する

通期の業績予想数値

2019年3月期業績予想数値の修正（2018年4月1日～2019年3月31日）

単位：百万円

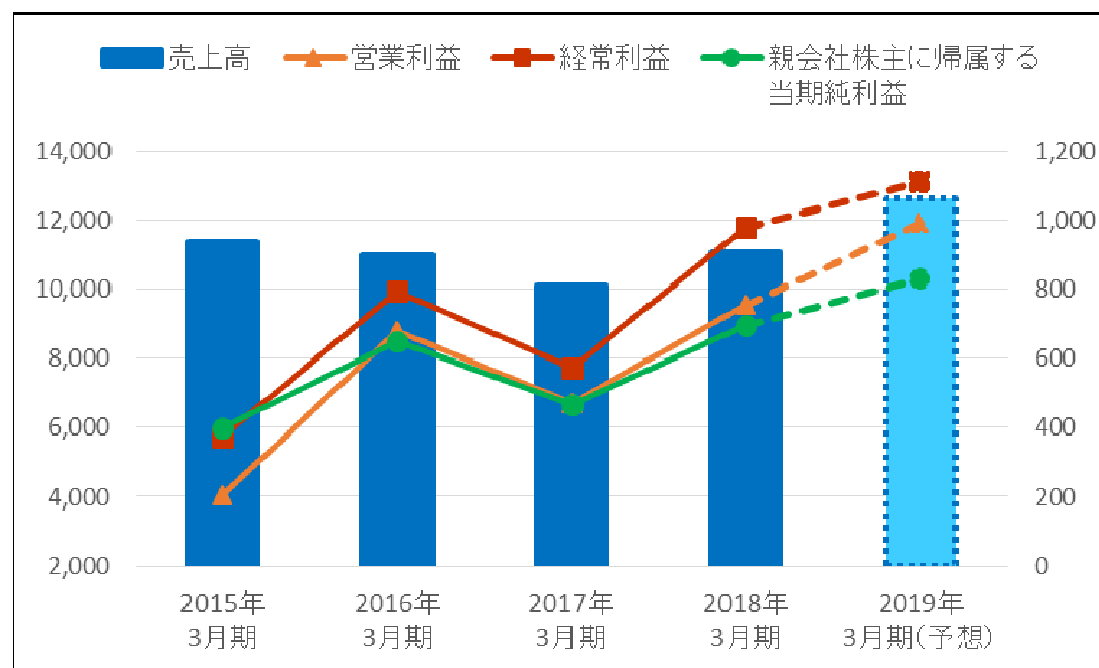
連 結	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	11,300	650	810	570	235.84
今回修正予想（B）	12,600	990	1,110	830	341.85
増減額（B - A）	1,300	340	300	260	
増減率（%）	11.5	52.3	37.0	45.6	
(ご参考)前期実績 (2018年3月期)	11,102	755	980	696	288.51

個 別	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	10,700	470	780	480	198.60
今回修正予想（B）	11,600	690	1,020	800	330.22
増減額（B - A）	900	220	240	320	
増減率（%）	8.4	46.8	30.8	66.7	
(ご参考)前期実績 (2018年3月期)	10,540	590	808	581	240.87

業績の推移（連結）

連結通期業績（予想）推移表	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期（予想）
売上高（百万円）	11,372	11,022	10,124	11,102	12,600
営業利益（百万円）	204	678	473	755	990
経常利益（百万円）	372	795	575	980	1,110
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	401	651	469	696	830
1株当たり当期純利益（円）	164.23	266.45	195.02	288.51	341.85

■ 売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益



剰余金の配当（中間配当）および 期末配当予想の修正

■ 中間配当金は40円、期末配当金は50円とする

当期の業績が当初予想を上回る見込みのため、**中間配当を前回予想から10円増配の1株当たり40円、期末配当予想を20円増配の1株当たり50円**とする。この結果、年間配当（中間配当1株当たり40円を含む）予想は、**30円増配の1株当たり90円**となる。

【配当方針】

当社は株主の皆様への利益還元について、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安に、新商品開発を推進するための設備・人財・研究などへの戦略的投資、中長期的な財務体質の強化等を勘案しつつ、安定的・継続的な配当に努めております。また、1株当たりの株主価値を向上させるとともに、資本効率の向上を図るため、適宜自己株式の取得に努めてまいります。

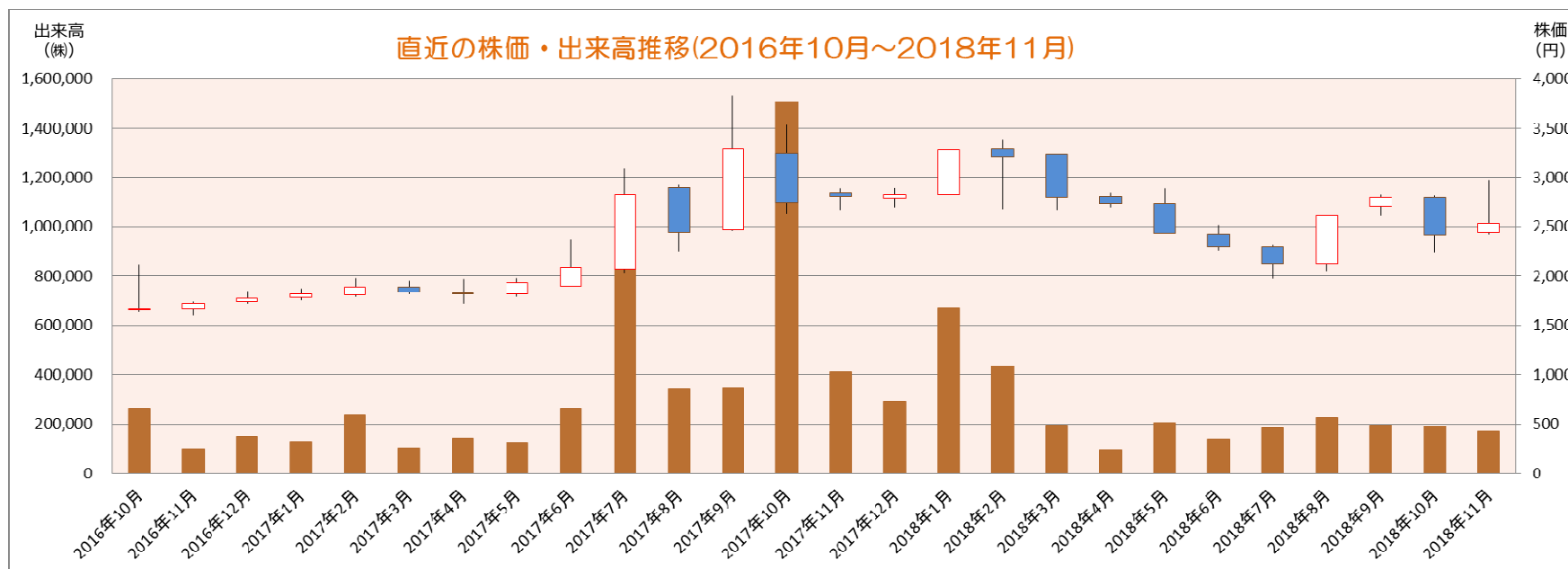
	2018年3月期 実績	2019年3月期 当初予想	2019年3月期 修正予想
中間配当金	円 銭 ※1 3 00	円 銭 30 00	円 銭 40 00
期末配当金	円 銭 ※2 50 00	円 銭 30 00	予想値 円 銭 50 00
1株当たり 当期純利益	円 銭 288 51	円 銭 235 84	予想値 円 銭 341 85
配当性向 (連結)	27.7%	25.4%	予想値 26.3%

※1：2018年3月期の中間配当金は株式併合前の金額

※2：2018年3月期の期末配当金は株式併合後の金額

株式の状況

株式指標	発行済株式総数 (18年9月)	2,577千株
	浮動株比率	66.4%
	株価 (11月20日) : 売買単位100株	2,527円
	1株あたり純資産 (19年3月期第2四半期)	4,114円89銭
	PBR : 株価純資産倍率	0.61倍
	1株当たり純利益 (19年3月期予想)	341円85銭
	PER : 株価収益率 (19年3月期予想)	7.39倍
	1株当たり配当金 (19年3月期予想)	90.0円
	配当利回り (19年3月期予想)	3.56%



中期経営計画の策定にあたり

当社は、創立100周年(2031年)に向けた飛躍への足がかりとして、2018年度から2020年度までの3ヶ年を対象とする新中期経営計画「**日本タンゲステングループ2020中期経営計画**」を策定いたしました。

今回の2020中期経営計画の策定にあたっては、2030年に会社を引っ張っていく若手社員が中心となり、職場ごとに自ら定めた未来のありたい姿に向かって自律的な活動を実施しました。

2020中期経営計画

2020中期経営計画では4つの基本方針を設定し、最終目標の達成に向けて重点項目について各施策を実行してまいります。

●基本方針

1 人財の育成

自発的に考え、行動する社員の育成

幅広い視点から深く考える人財を育成し、
個人だけでなく組織の課題設定力・課題解決力を
向上させていきます

2 新商品の創出

お客様のニーズをいち早くつかみ、 継続的かつスピーディに新商品を創出

新商品の創出活動を活性化させ、
NO.1の価値創造に挑戦します

3 ものづくりの強化

お客様に満足していただける良いものを 安く、早くつくる、ものづくり力

生産効率の向上、コストの削減、品質の安定を図り、
収益拡大を目指します

4 グローバル市場での拡販

グローバルネットワークの拡大

世界中のお客様へ向けたサービスの提供、販売、
製造体制を確立し、売上拡大を目指します

● 施策の概要

マーケティング機能・新商品開発の質的向上を図り、
商品力・機能で差別化を目指す

3つの施策を土台として
新商品を継続的に生み出すための体制・基盤を整備

新商品創出システムの構築

マーケティング戦略の機能を
集約し、新技術・新商品を
継続的に創出するための組織
体制・プロジェクト体制を構築

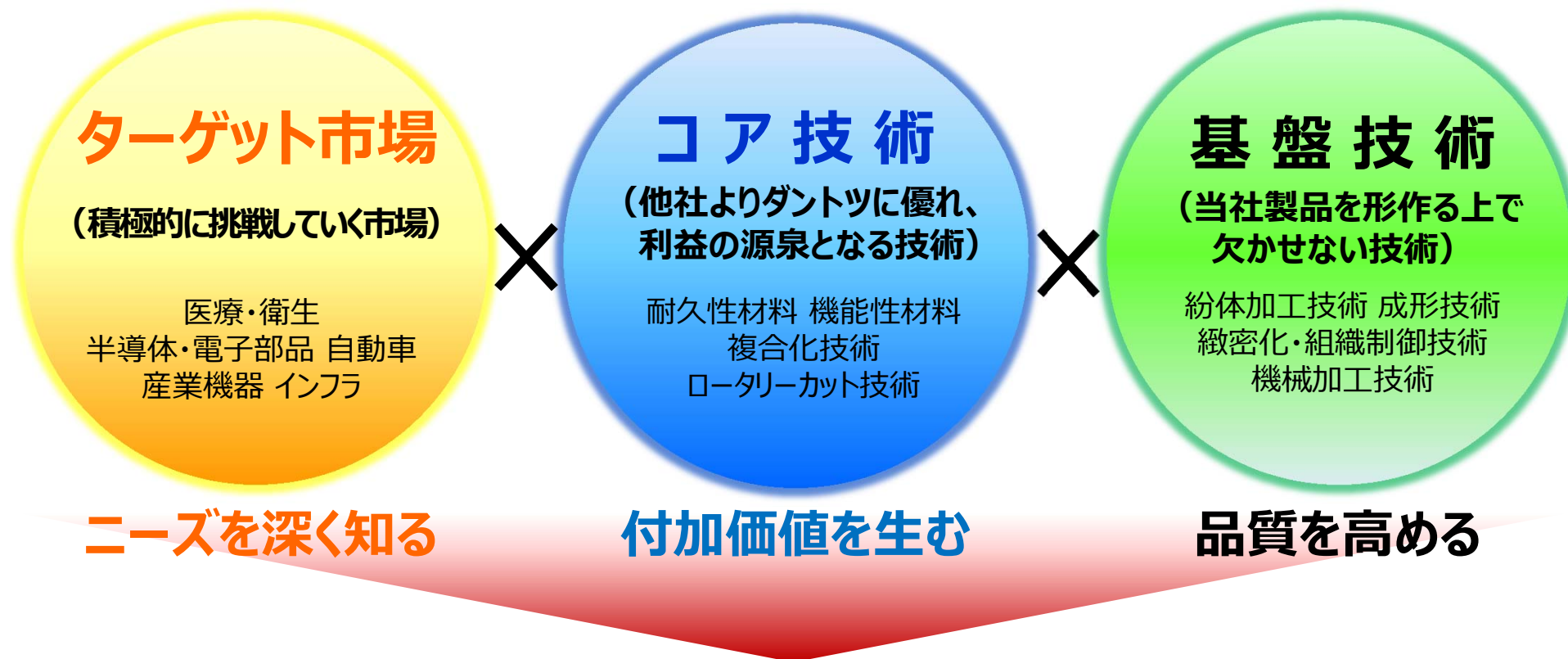
コア技術戦略

5つのターゲット市場×コア技術
×基盤技術を明確化し、戦略
的に新商品を投入

オープンイノベーションの活性化

学会・協議会活動、共同研究
共同開発等の活性化

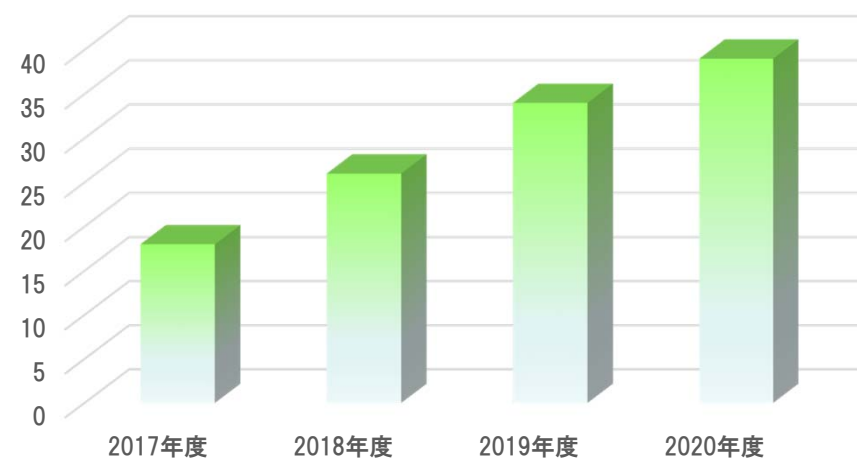
●コア技術戦略の概要



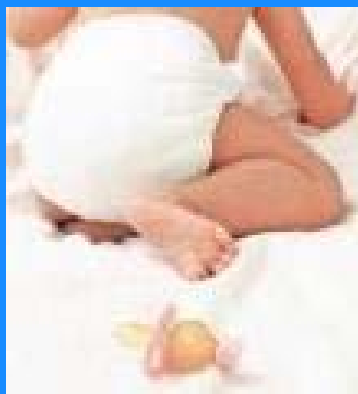
NO.1の価値創造に挑戦

■ 衛生用品・医療

衛生用品・医療分野の売上計画(億円)



衛生用品



NTダイカッター

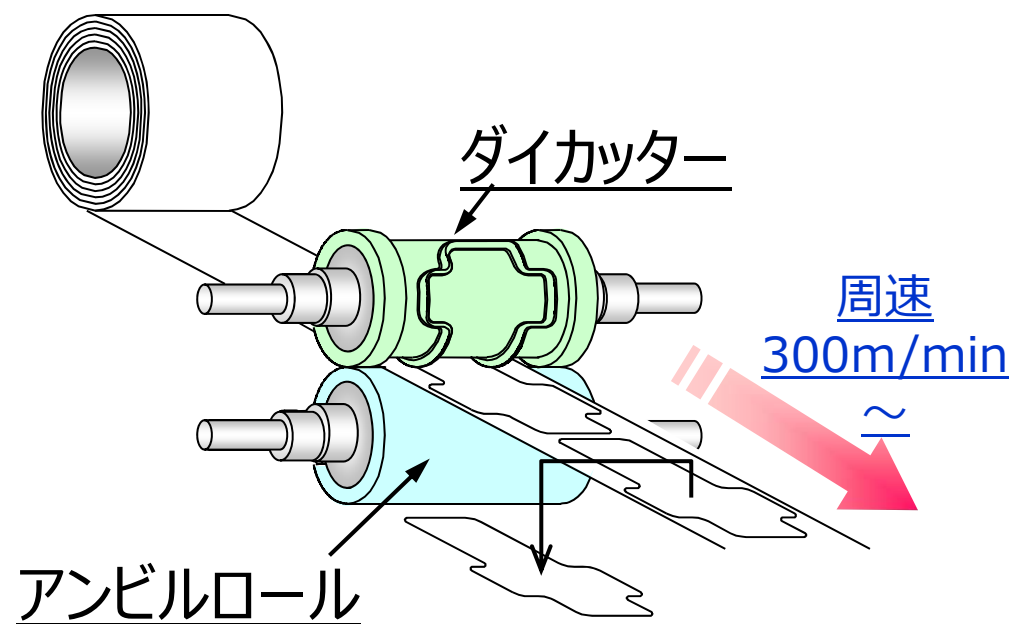
医療



タンゲステンリボン

NTダイカッターの紹介

NTダイカッター

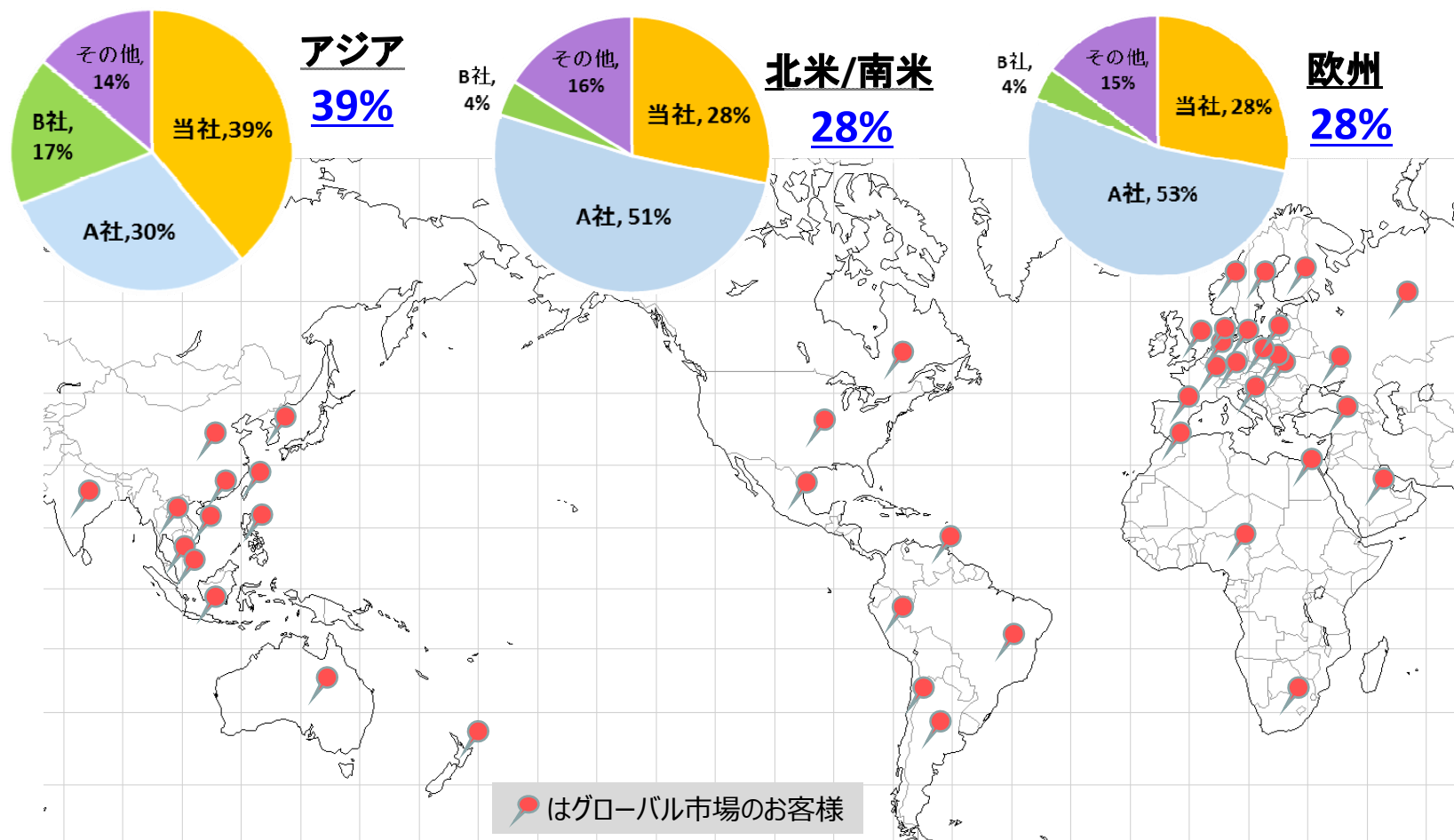


NTダイカッターは1986年、世界に先駆けて、独自の粉末冶金・高精度加工技術により商品化された高性能超硬合金製ロータリーカッターで、不織布・紙・ポリマー・金属箔などの高速輪郭加工が可能です。

紙おむつ・ナプキン製造用カッター（超硬合金）の**グローバル市場で高いシェアを誇る**当社の主力製品です。

NTダイカッターの市場シェア

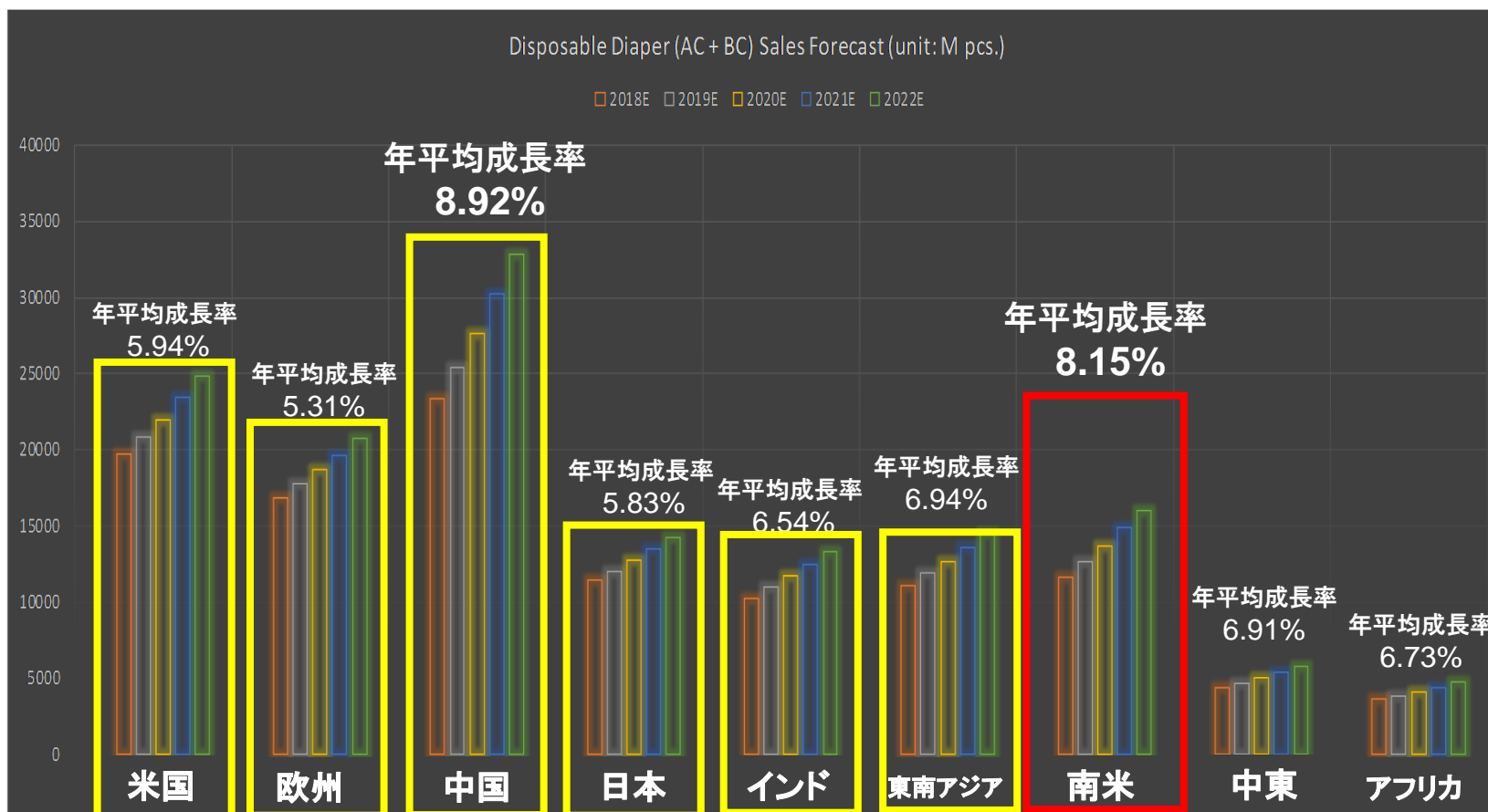
- ◆44カ国のお客様へ納入。
- ◆超硬ダイカッター市場シェア：アジア市場No.1、グローバル市場No.2（当社調べ）



超硬ダイカッター市場におけるNTダイカッターの地域別市場シェア（当社調べ）

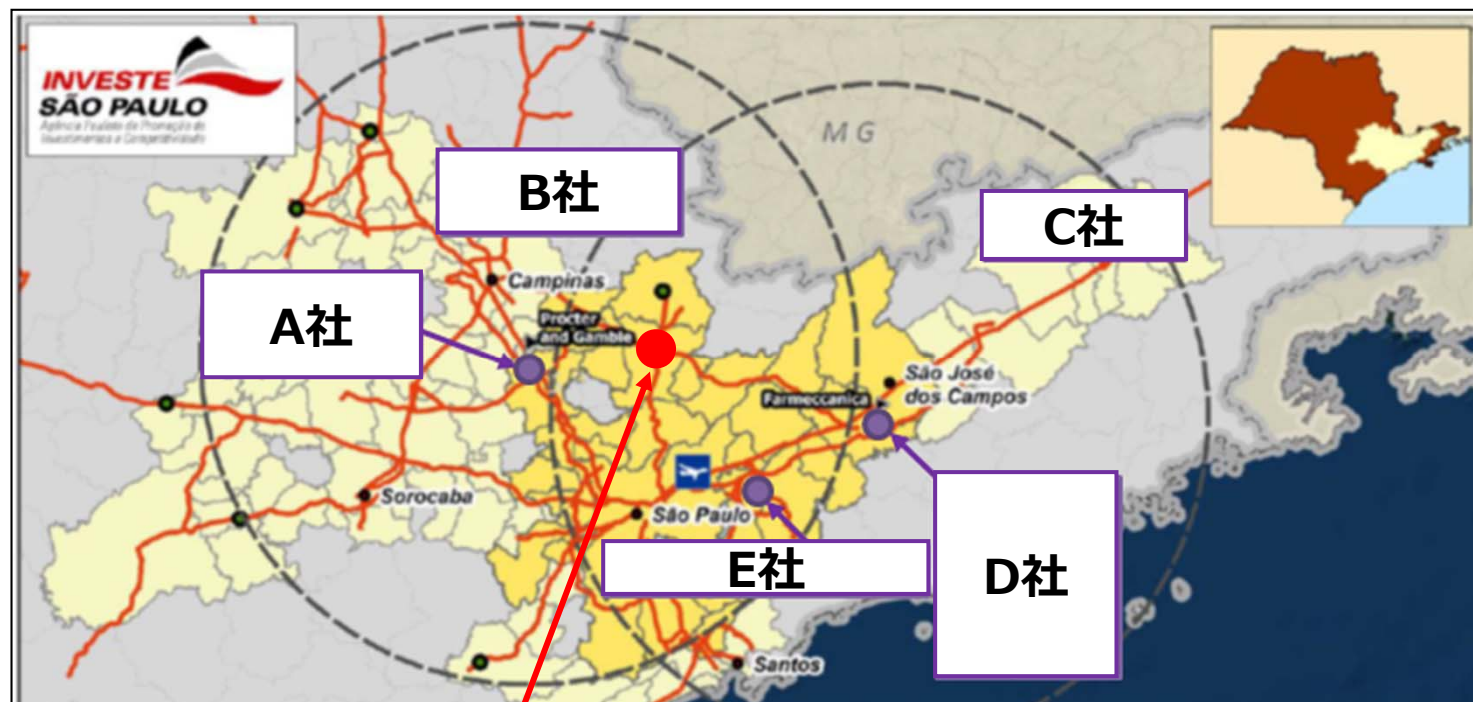
衛生用品の市場成長予測

- ◆地域別の年平均成長率は、①中国、②南米の市場が高い
- ◆製品別では、大人おむつ製品の成長が期待される ⇒大型ダイカッター製品の開発

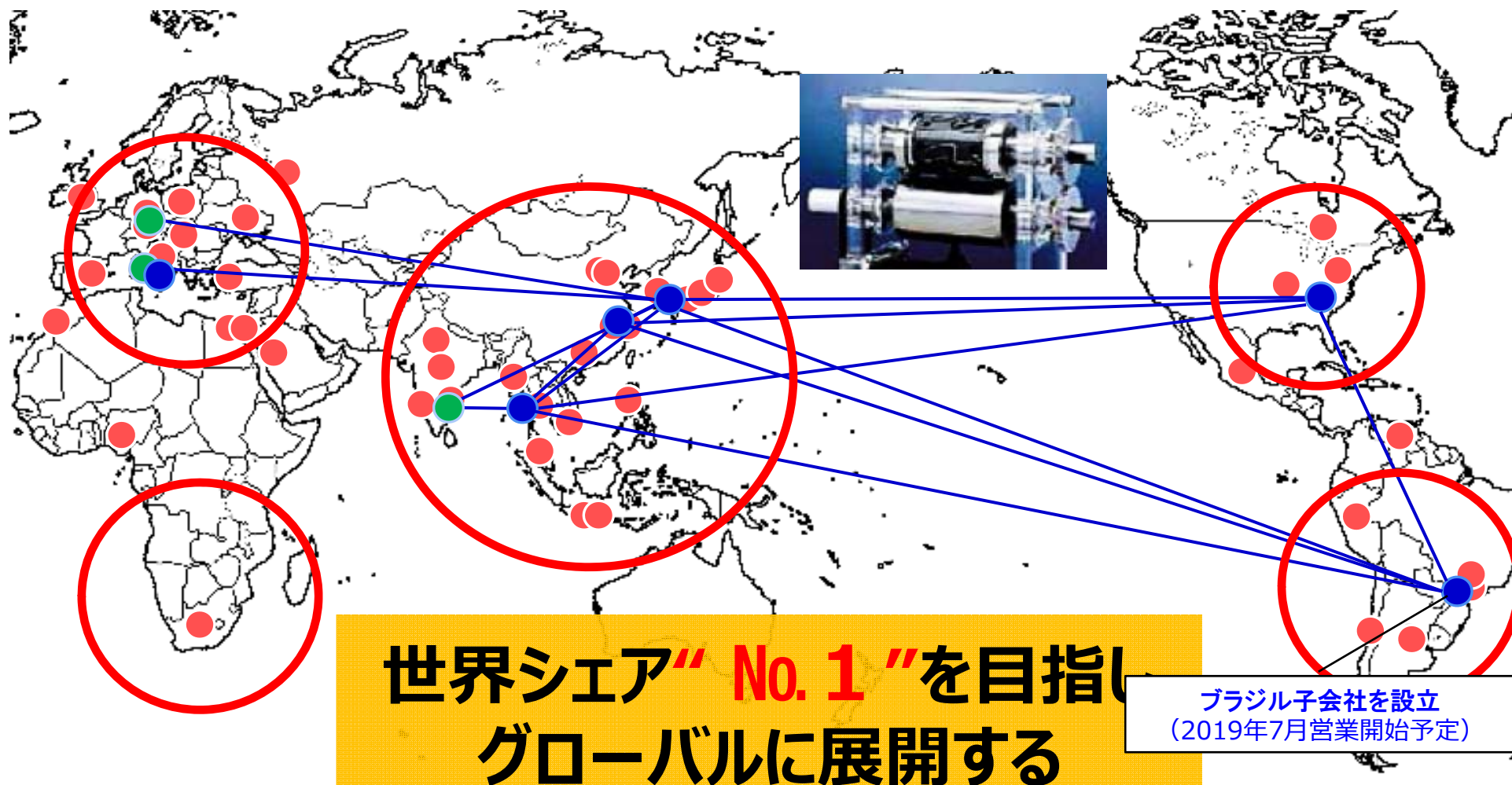


大人・子供おむつの地域別市場成長率予測 2018-2022 (出典: QY research)

ブラジル子会社設立



- ◆ 設立予定地：ブラジル サンパウロ州
(南米市場において、サニタリーメーカーはブラジルに集中)
- ◆ 営業開始予定日：2019年7月
- ◆ 事業内容：① NTダイカッター関連製品の販売および再研磨サービスの提供
② その他当社関連製品の販売およびサービスの提供



グローバル市場のお客様（●）ニーズに対応し、販売拠点を展開し、アフターサービス拠点（●：グループ会社 ●：協力会社）を充実させることで、更なるシェアアップを目指します。

基山工場の建屋増築

N T ダイカッターの生産能力増強・今後の新製品増産を目的とした基山工場の建屋増築工事が2018年3月に終了し、2018年5月に稼働を開始。

建屋の概況

- (1) 所在地 佐賀県基山町
- (2) 建築面積 約4,100㎡
- (3) 竣工 2018年4月
- (4) 生産開始 2018年5月
- (5) 投資総額 約10億円

生産能力

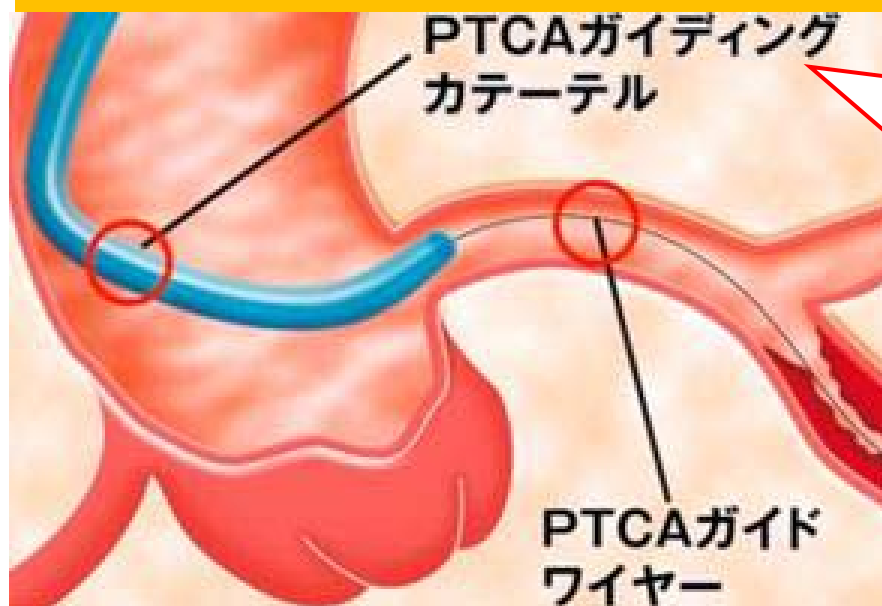
今回の増築により、N T ダイカッターの生産能力は現在の2倍となる予定



増築した
建屋

— 一体にやさしい(低侵襲)医療に役立っています —

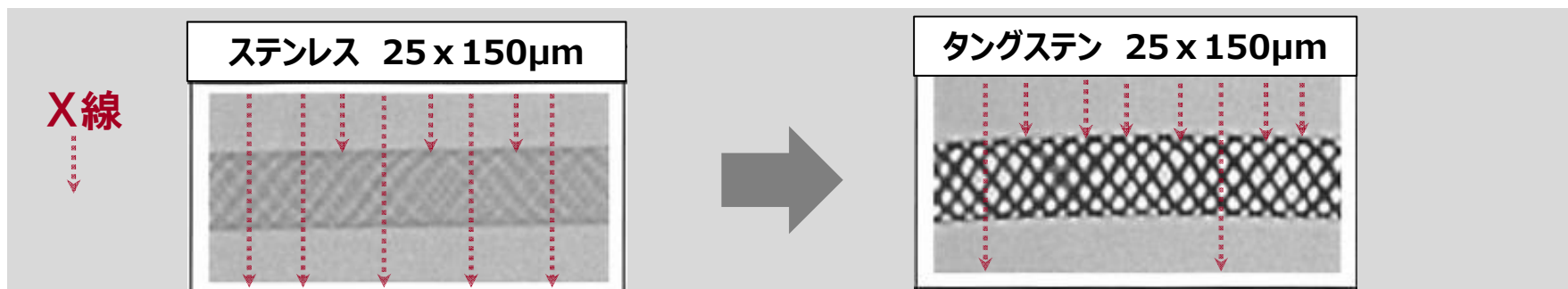
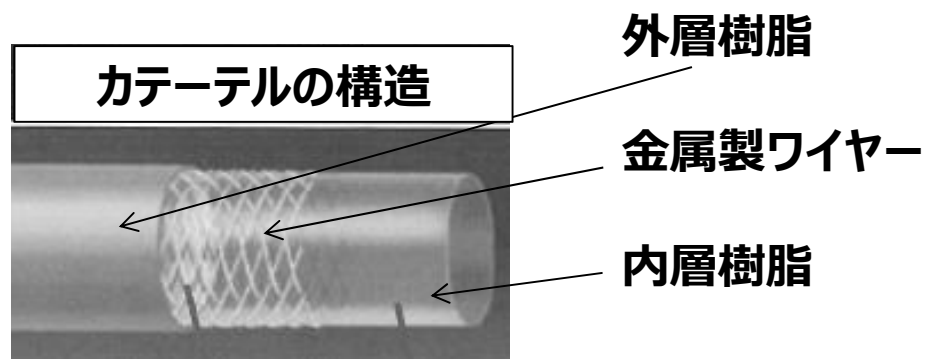
血管狭窄(きょうさく)手術



タングステンの特徴を生かした細い線や薄いリボンが、ガイディングカテーテルに使われています。
細い血管を通り、確実に患部に到着させます。

タングステンリボンの紹介

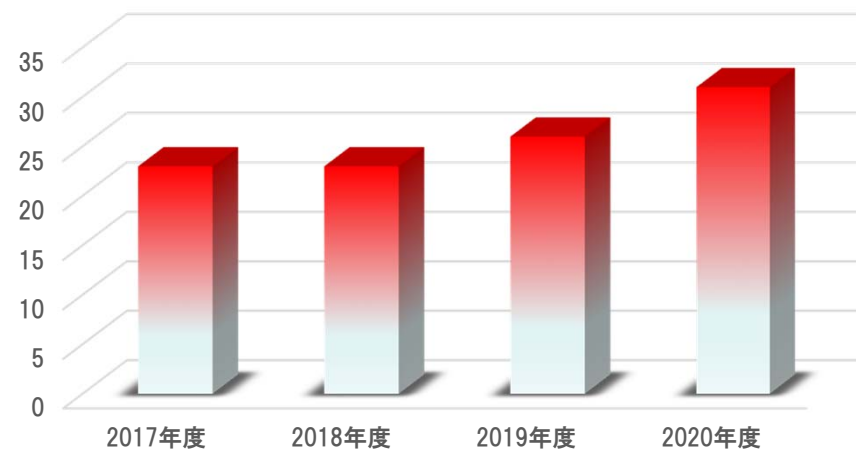
—カテーテル素材への用途展開—



- * タングステンは鉄の**2.5倍の重さ**があり、その特徴で、同じ条件下でX線を照射したモニターでは**2.5倍クリア**に見えます。
- * X線照射量を減らすことで、**体の負担が軽減**されます。

■ 半導体・電子部品

半導体・電子部品分野の売上計画(億円)



半導体



半導体製造
装置部材

電子部品



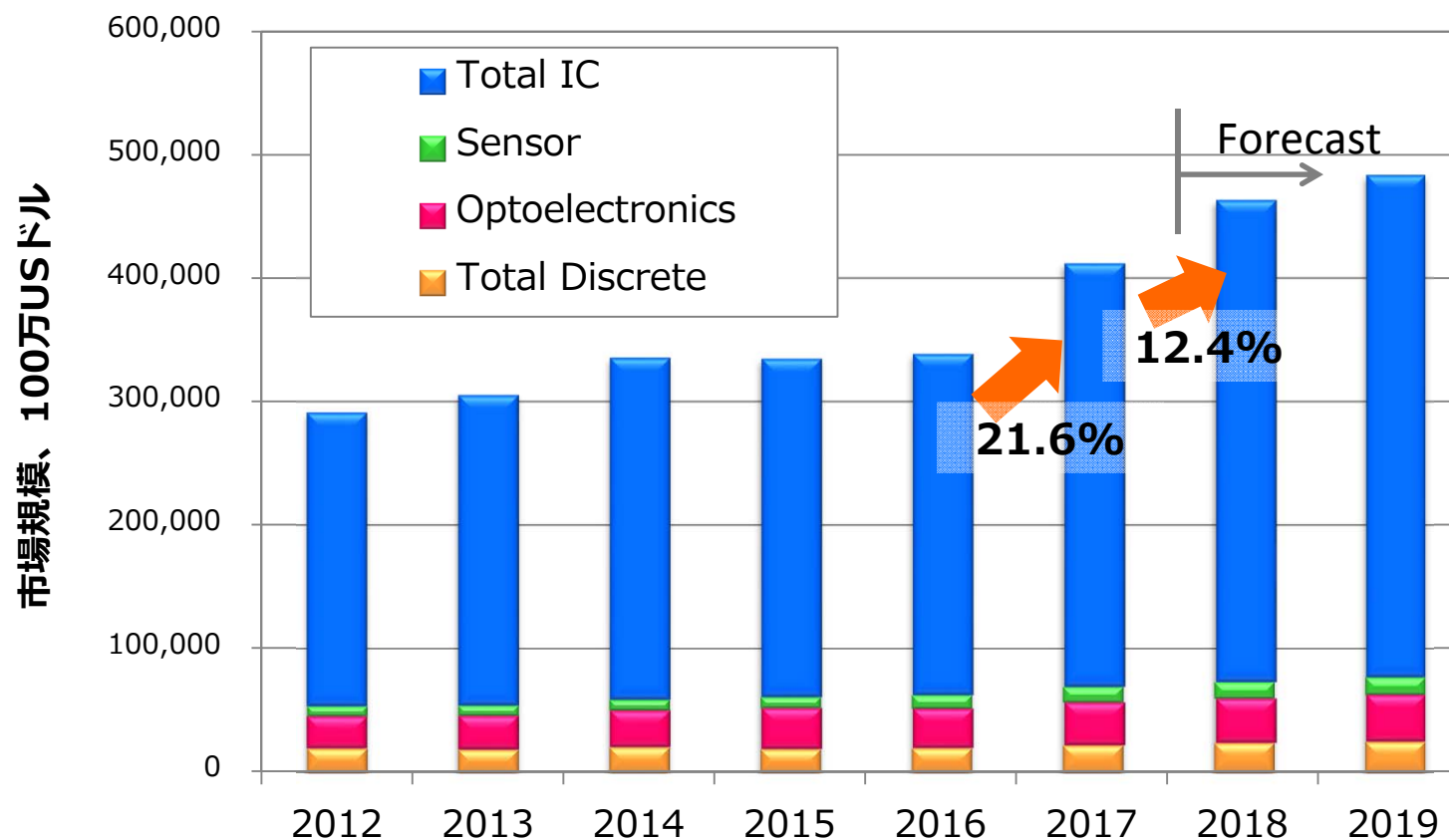
ハードディスク
ドライブ用
磁気ヘッド基板

半導体製造装置部材の紹介



半導体市場 実績・予測

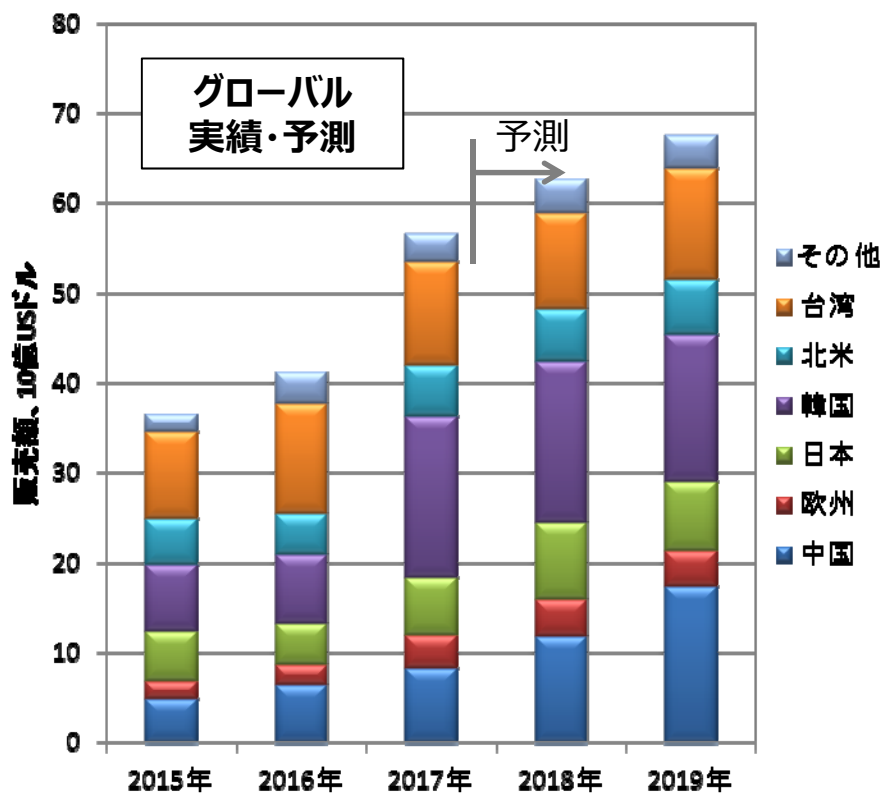
- ◆ 2017年は前年比21.6%の伸び、2018年も12.4%と高い成長率を見込む
- ◆ メモリが半導体市場の高い成長率を引き続き牽引する



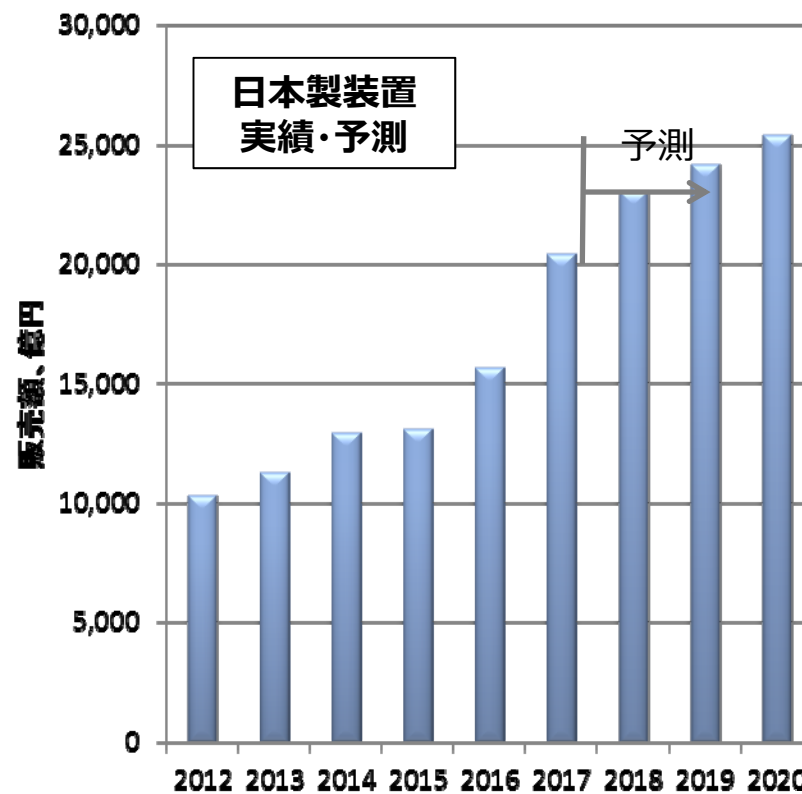
※出典：World Semiconductor Trade Statistics, 2018年6月

半導体製造装置市場 実績・予測

- ◆ 2017年はグローバル、日本製装置ともに大幅に伸長
- ◆ 2018年以降も半導体の旺盛な需要に支えられ、堅調な成長が見込まれている



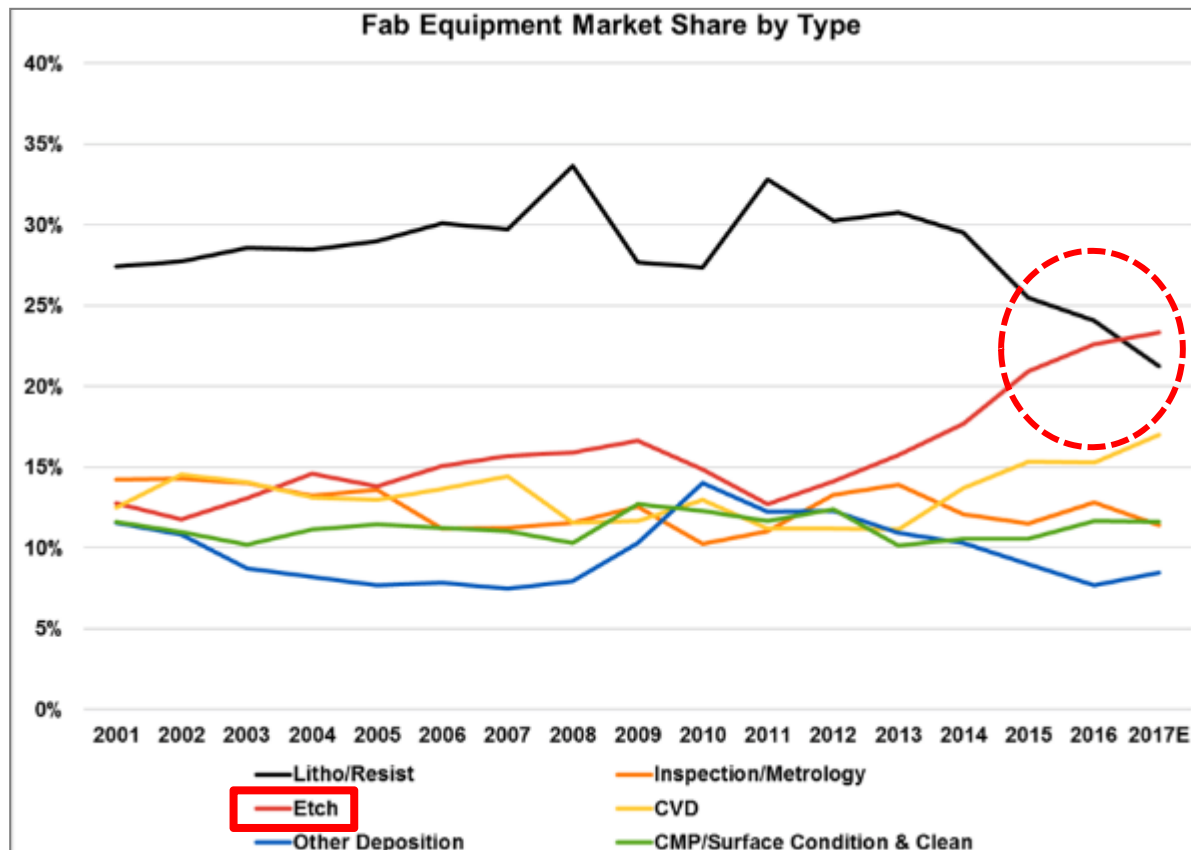
※出典：国際半導体製造装置材料協会（SEMI），2018年7月



※出典：日本半導体製造装置協会（SEAJ），2018年7月

エッチング装置と露光装置の割合

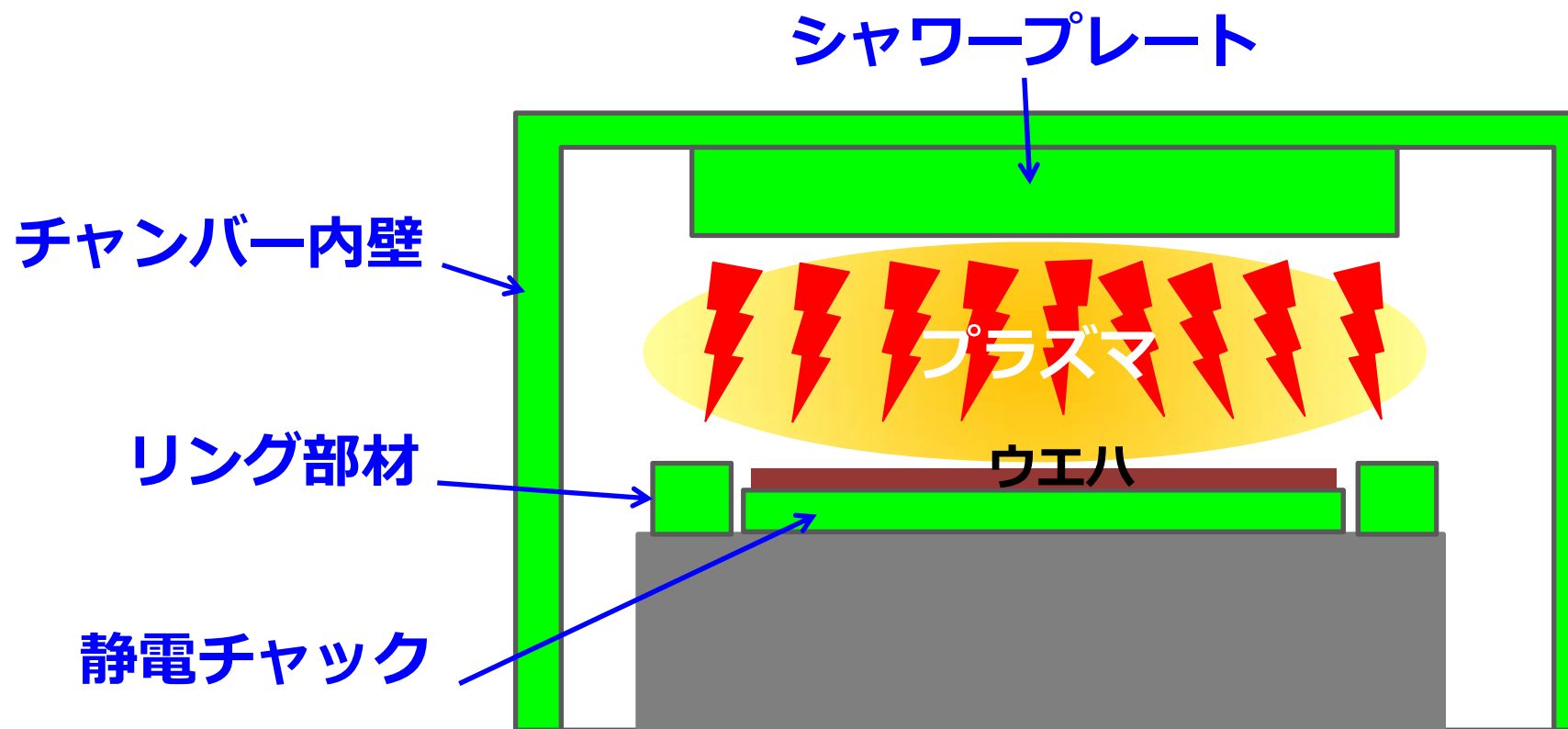
- ◆ 2017年、エッチング装置の売上規模が初めて露光装置を上回った
- ◆ 半導体の微細化・多層化に伴い、今後もエッチング装置市場の拡大が見込まれる



伸長するエッチング装置市場に、当社の耐プラズマ部材を投入する。

※出典：SEMI / SEAJ WWSEMS

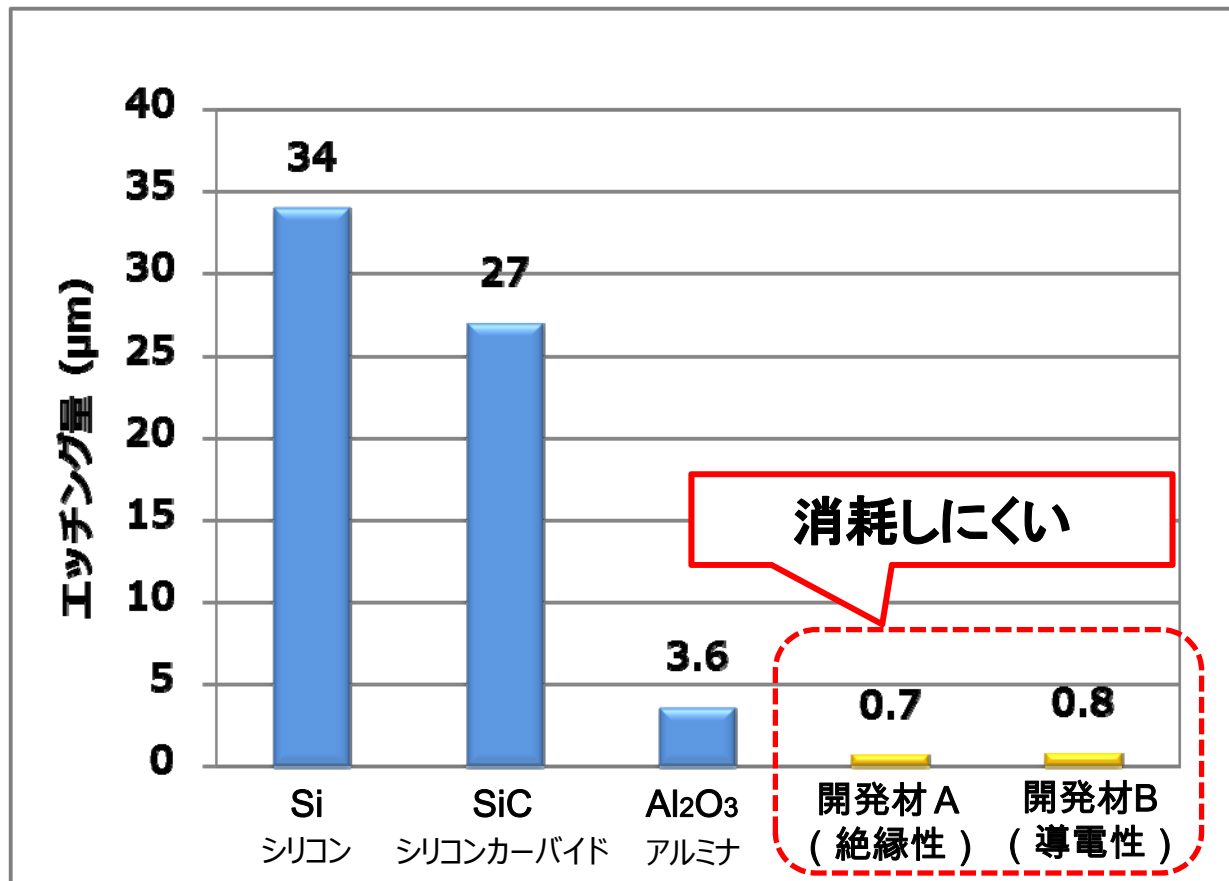
プラズマエッチング装置へのセラミックス応用例



半導体製造用プラズマエッチング装置の模式図

プラズマ耐性に優れた特殊セラミックス

各種セラミックスのプラズマ耐性



エッチング条件

装置：平行平板型反応性
イオンプラズマ
エッチング装置

ガス：CF₄

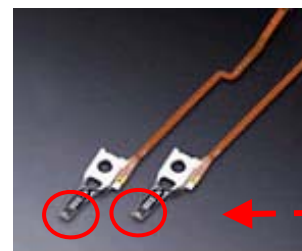
圧力：10Pa

出力：1000W

時間：130分間

消耗しにくい

ハードディスクドライブ用磁気ヘッド基板



パソコン用途のハードディスクドライブは減少しますが、データセンター用の大容量ハードディスクドライブは微増を予測しており、全体でも微増を見込んでいます。

磁気ヘッド基板の**世界シェアは75%** (自社推計) で世界中の磁気ヘッドに広く使用され、高い評価をいただいています。

2020中期経営計画

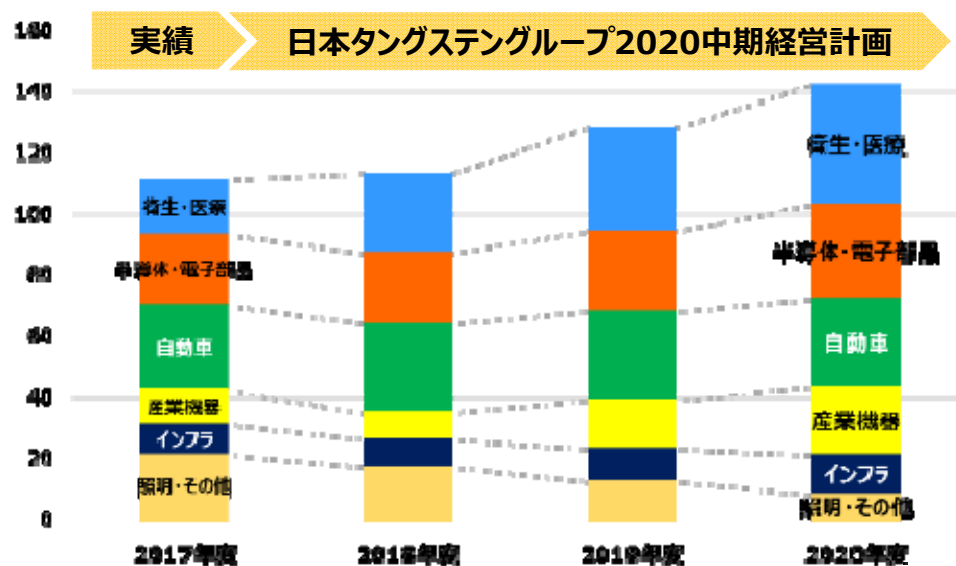
● 計数計画

5市場別の連結売上高目標

(単位：億円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
衛生・医療	18	26	34	39
半導体・電子部品	23	23	26	31
産業機器	11	9	16	22
自動車	28	29	29	29
インフラ	10	9	11	13
照明・その他	21	17	12	8
計	111	113	128	142

(単位：億円)



2030年度目標
230億円

創立100周年に向けて

2030年度

● 計数計画

5 市場別の主な製品

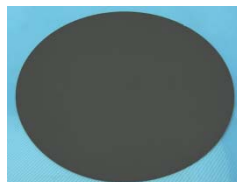
衛生・医療

NTダイカッター
タングステンリボン



半導体・電子部品

耐プラズマ材料製品
プラズマ電極



自動車

抵抗溶接用電極
EV用接点製品



産業機器

UFBクーラントシステム
一般耐摩耗部材



インフラ

重電受配電
リング製品



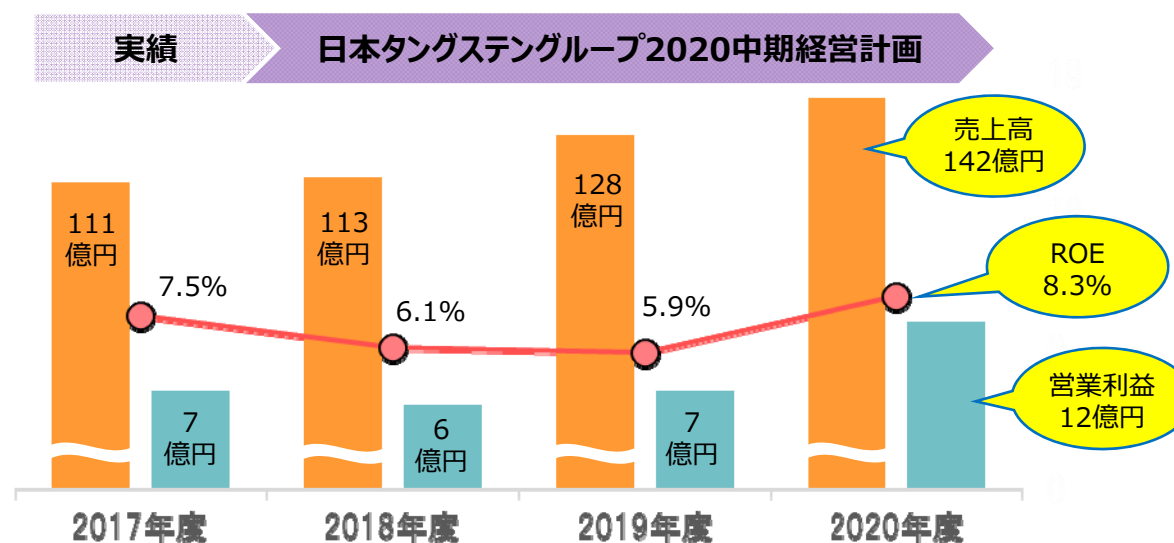
2020中期経営計画

● 計数計画

2020(最終)年度に目指す指標

連結売上高	142億円
連結営業利益	12億円
ROE	8.3%

連結業績目標の推移



ご静聴ありがとうございました。

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

(参考) 業績の概要 (連結)

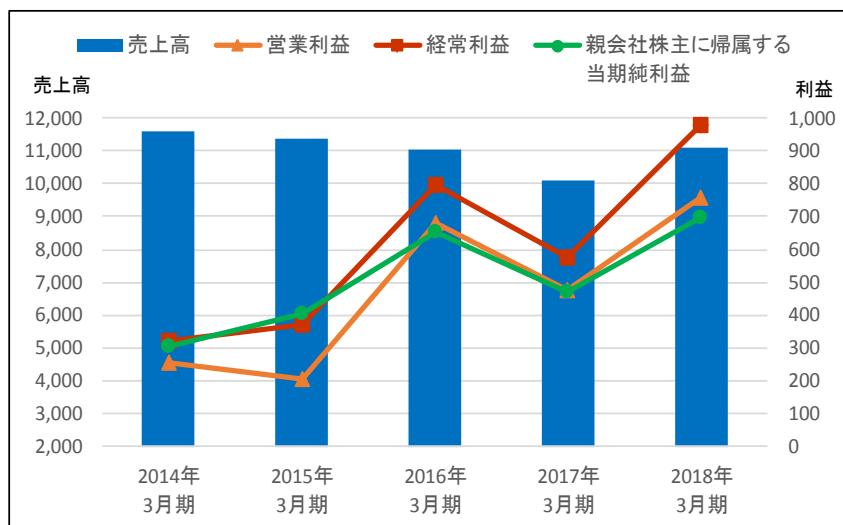
■ 経営成績 (連結)

海外の不採算事業を整理し、高採算事業へ注力

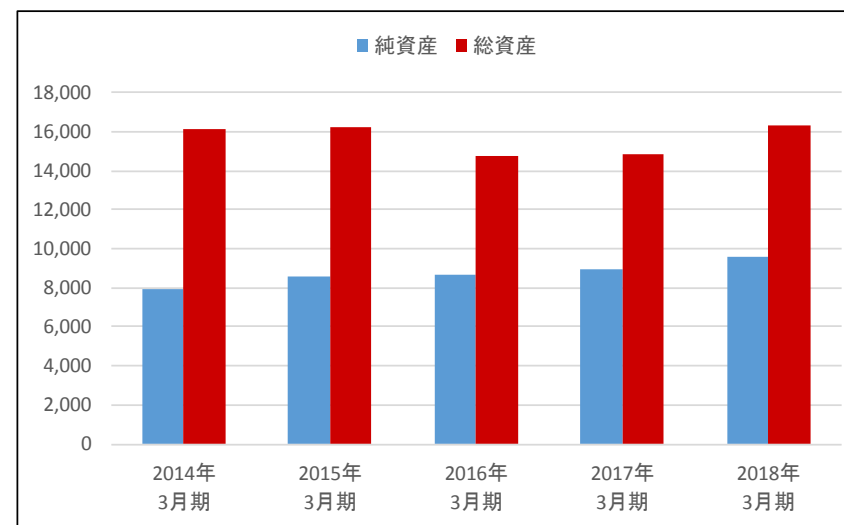
(単位: 百万円)

区 分	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期
売 上 高	11,616	11,372	11,022	10,124	11,102
営 業 利 益	256	204	678	473	755
経 常 利 益	320	372	795	575	980
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	303	401	651	469	696
純 資 産	7,950	8,563	8,652	8,978	9,578
総 資 産	16,155	16,177	14,777	14,836	16,306

■ 売上高・経常利益・当期純利益



■ 純資産・総資産

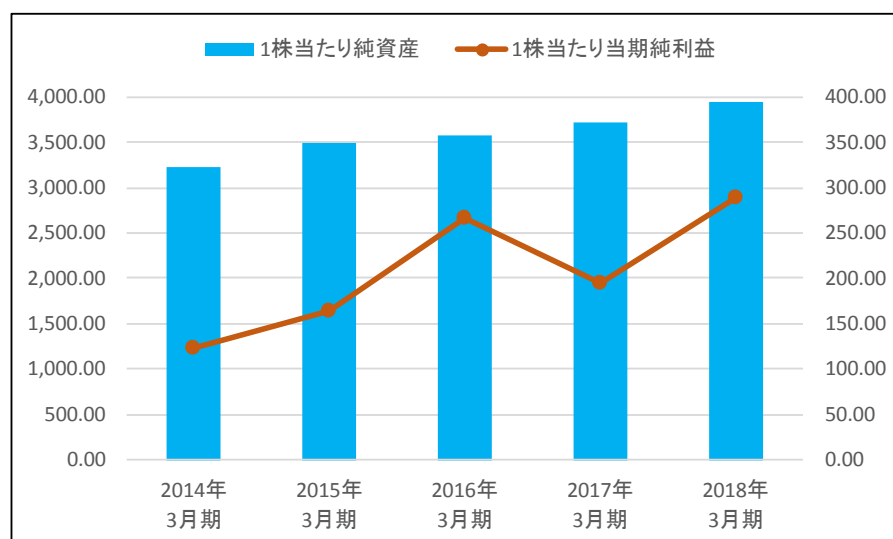


(参考) 業績の概要 (連結)

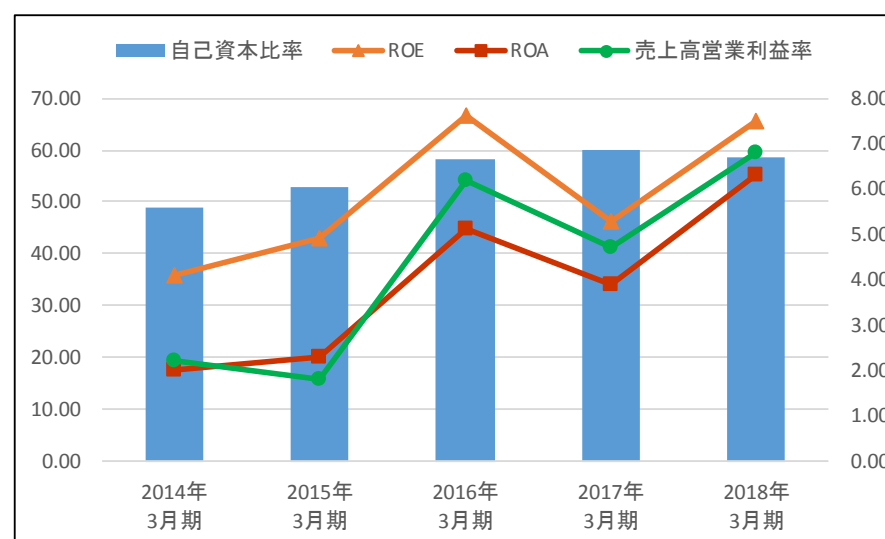
■ 経営指標

区 分	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期
1株当たり純資産 (円)	3,223.59	3,483.29	3,582.89	3,715.00	3,949.26
1株当たり当期純利益 (円)	123.87	164.23	266.45	195.02	288.51
自己資本比率 (%)	48.80	52.70	58.30	60.20	58.50
自己資本利益率 (ROE) (%)	4.10	4.90	7.60	5.30	7.50
総資産経常利益率 (ROA) (%)	2.00	2.30	5.10	3.90	6.30
売上高営業利益率 (%)	2.20	1.80	6.20	4.70	6.80

■ 1株当たり純資産・1株当たり当期純利益



■ 自己資本比率・ROE・ROA・売上高営業利益率



(参考) 業績等の推移 (過去10年間)

過去の業績等 (売上、営業利益、経常利益、株価) の推移

